

私のくらしとふんか

ー雲仙普賢岳の噴火災害を体験した小学生の気持ちー



長崎大学医学部衛生学教室

横尾美智代・守山正樹 編

1996年 1月

もくじ

巻頭言

第1章 はじめに

—大野木場小学校のみなさんへ— 3

第2章 わたしの気持ち

—ひとりひとりの作品を見て考えよう— 21

第3章 みんなの気持ち

—みんなにとっていやだったこと・たのしかったこと— 89

第4章 みんなのアイデア

—火山といっしょに生活するために— 103

第5章 おわりに

—おれいの手紙— 113

参考資料

—二次元イメージ展開法に関心を持った方へ— 117

かんとうげん
巻頭言

ふっこう
復興にむけ、明るくたくましくがんばってほしい。
そのことが、はげましていただいた方へこたえる
ことになると思うから。

ながさきけんみなみたかきぐんふかえちょうりつおおのこばしょうがっこう
長崎県南高来郡深江町立大野木場小学校
校長 河野 義文

第 1 章

はじめに

—大野木場小のみなさんへ—

大野木場小学校のみなさんへ

みなさん、こんにちは。

おげんきですか？

いぜん以前に「かどわきの時間」を使って、みなさんに
作ってもらった『私のくらしとふんか』の作品の
さくひんまとめができました。

おやくそくしていたとおり、楽しい作品集に
なるようにがんばって作りました。

最後のページまでゆっくりごらんください。

そして、読んだ感想をきかせてください。

198年の間ねむりつづけていた^{うんぜん・ふげんだけ}雲仙普賢岳が

ふたたび、白いけむりをあげはじめたのは

1990年11月のことでした。

それから、わたしたちのまわりでは

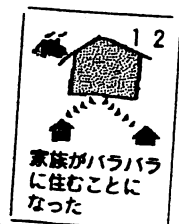
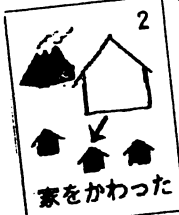
さまざまな変化が occurred。

私たちのまわりの
かんきょう
環境がかわった！！

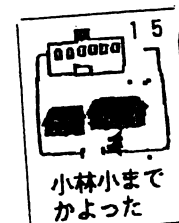
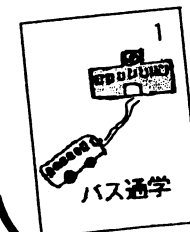
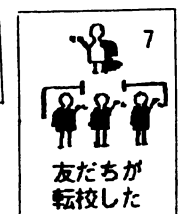
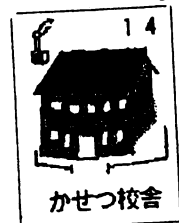
そとのように



家のようす



学校のようす



いやだなあと思ったことがありました。

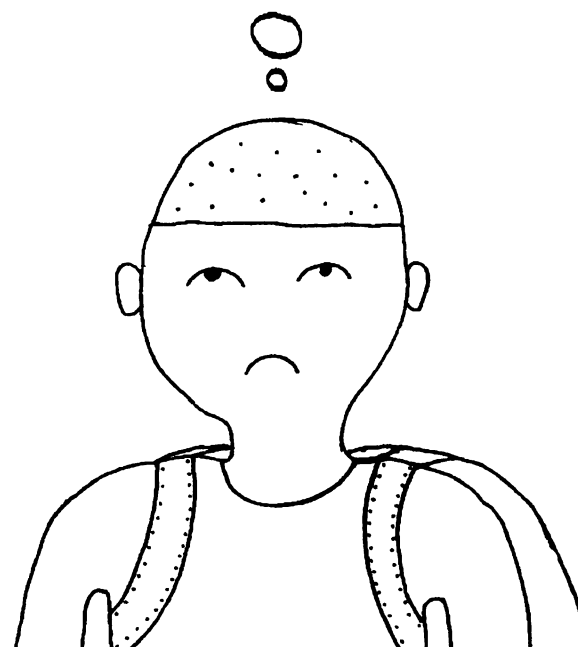
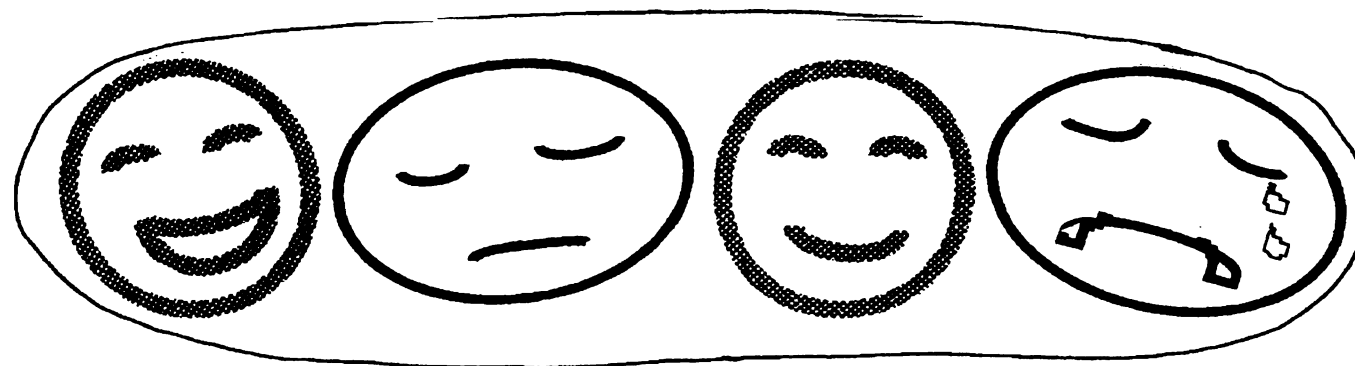
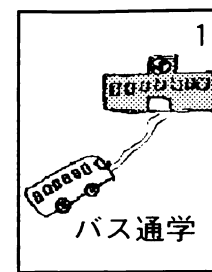
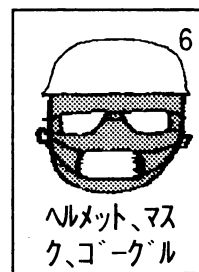
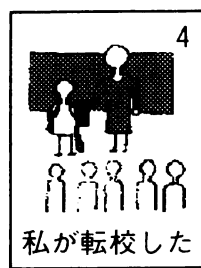
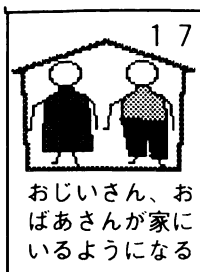
けれど、うれしいなあと思ったこともありました。

わたしたちは、くらしの大きな変化をどのように

感じていたのでしょうか？

一枚の紙とたくさんのシールをつかって表現して

みました。



これが「私のくらしとふんか」を表現するための方法です。

自分に関係のあるシール、強く心にのこっているできごとが
書いてあるシールに、○じるしをつけて、はさみで切りとり
ました。



「私のくらしとふんか」を表現するのに用いたシール

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日(木)

大野木場小学校(4・5・6)年 名前 _____



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや



まず、「いやだった気持ち」を思い出して
シールを3つにわけて、なりました。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日(木)





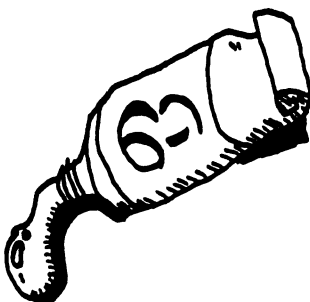









大野木場小学校(4・5・6)年 名前 _____

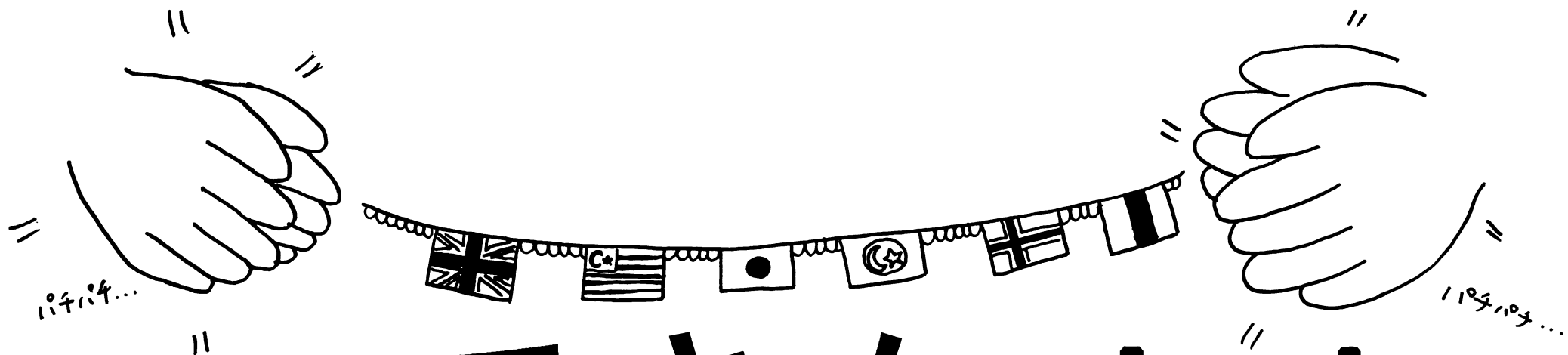


とても
うれしい

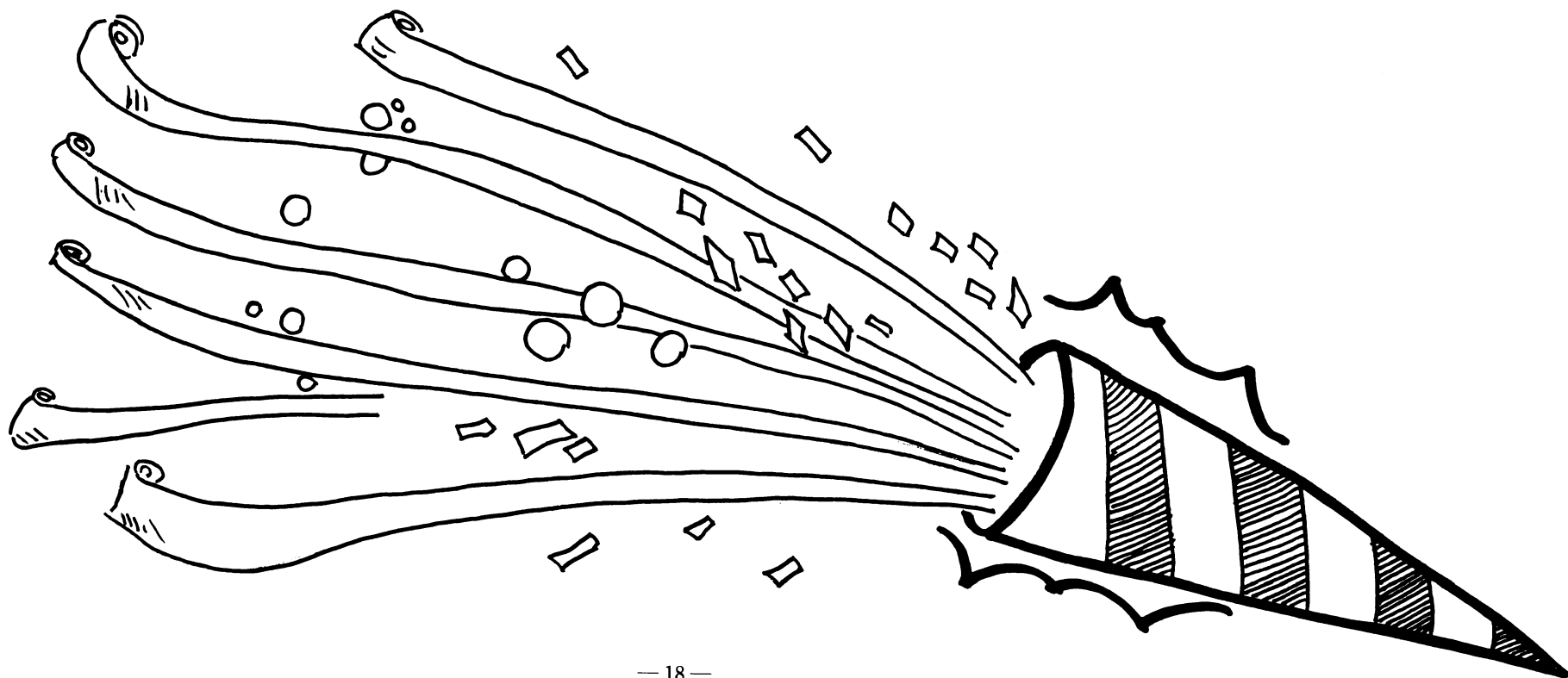


ちよつと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 バス通学	 私が転校した	 かせつ校舎	
 お母さんがいいしよくをする		 小林小までかよった	 ひなん生活	 家をか変わった
	 山のようすがかわった	 ヘルメット、マスク、ゴーグル	 友だちが転校した	 灰の中の生活



できた！！



「私の暮らしとふんか」

1994年9月8日(木)





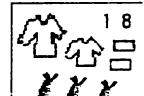
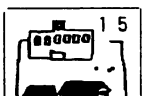






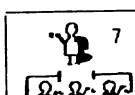
大野木場小学校(4・5・6)年 名前



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 17 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 1 バス通学	 4 私が転校した	 14 かせつ校舎		
 18 お母さんがいないしよくをする	 15 小林小までかよった	 10 ひなん生活	 2 家をかわった		
	 3 山のようすがかわった	 6 ヘルメット、マスク、ゴーグル	 3 灰の中の生活	 6 学校がやけた	 7 友だちが転校した



ちょっといや



とてもいや

作品を見ると、私たちのくらしの変化には

「いやだった気持ち」だけではなく「うれしい気持ち」

もあったことがわかりました。

うれしく思ったのはどんなことだったのでしょうか？

いやだと思ったのはどんなことだったのかしら？

それでは、ひとりひとりの作品を見ていきましょう。

第2章

わたしの気持ち

ーひとりひとりの作品を見て考えようー

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・⑤・⑥ 年



このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



わたしは、かせつ校舎がうれしいのは、はげましの手がみかきたり、本がおくってきたり、グラウンドがあるからうれしい。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

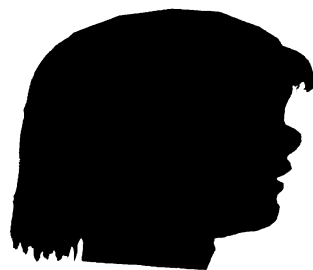


学校が、もえたのか、どうしてやったったのは、また1年生でたうがくしたばかりで、学校のこともあまりしらないか、たしまたまだ学校のことをしりたか、たから。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

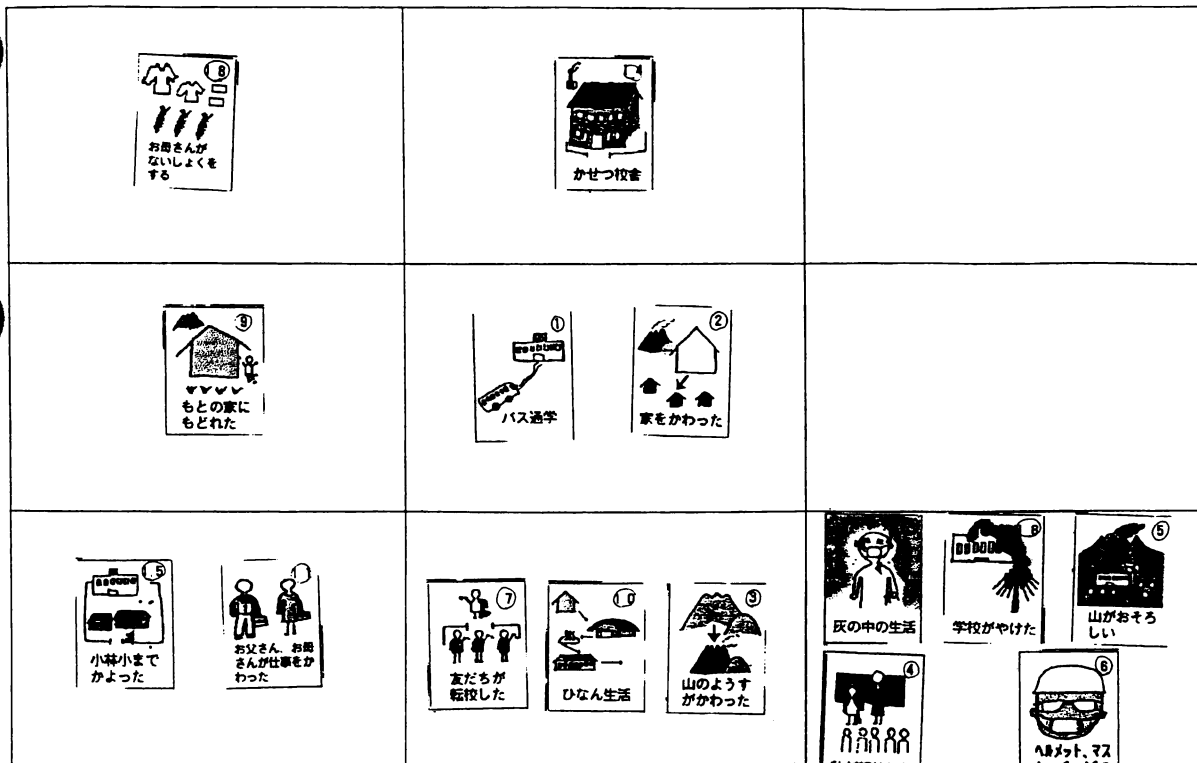
大野木場小学校 (4)・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

お母さんがいないしよくしたらずといしにいて
からとてもうれしかった。

家にもどれたのはうれしいけど、ともだちがあまり
いない。

かせつこうしゃはみんないうからとてもうれしい。

バスがこうはうれしいけど、せまかった。

家がかけたら、ともだちがとくにいるからあ
りあそべなかつた。

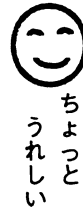
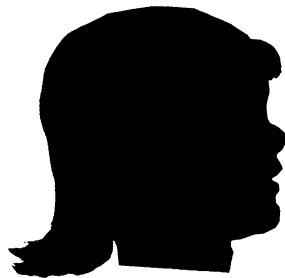
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4・5・6) 年





ちょっといや

とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

私が転校した、ちょっとうれしかったことは、みんなと友達になれたからです。

かせつ校舎で、少しうれしいのは、家がかちかいからです。

家をかかわってうれしかったことは、友達と家が、ちかくなつたからです。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とても

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



もとの家にもどれて、思い出したのは、せまい、かせつでの生活より、自分の家にもどれたからシールを、上にうごかししました。
お母さんがいないしよくをするのか、ちょっとうれしかったのは、お母さんがいつも、家にいるから。

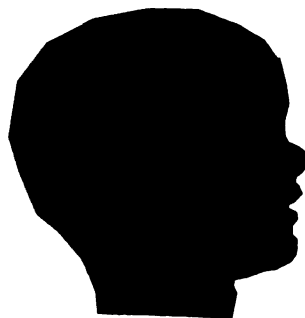
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4)・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



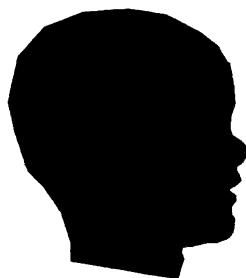
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 バス通学		 ひなん生活
 お父さん、お母さんが仕事をかわった	 ヘルメット、マスク、ゴーグル	
 かせつ校舎 家にだれもいない	 家をか変わった 友だちが転校した 小輪小までかよった	 学校がやけた 灰の中の生活 山のようすがかわった



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



バス通学車がいつぱい通って日とかに
はいがはいたってあじないから、
おやが仕事をかえたお母はまえいえ
いなかのたのしみはお父さんがい
から。ヘルメットマスクゴーグル目にはりつたいた
ひなん生活小輪小までいつぱいあそべだ
からうれしかった。

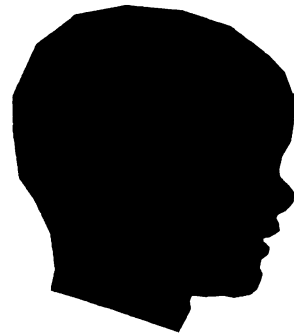
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4)・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



家をかわったことは、つりやかいほりやで
たからです
ひなん生活はいとこの家にとまったりで
たからです。

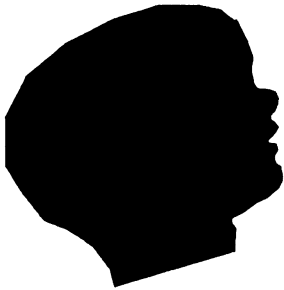
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



へやが""おおくなたからうれしい
あんまりあえないからちょっと
いや

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・⑤・⑥ 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 バス通学	 私が転校した	 かせつ校舎
 お母さんが洗いしよくをする	 小軒小までかよった	 家をかわった	 ひなん生活
 山のようすがかわった	 ハロメット、マスク、ゴーグル	 家裏がバラバラに住むことになった	 灰の中の生活
		 山がおそろしい	 友だちが転校した
		 家にだれもいない	 学校がやけた



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



・てんこうしたことがうれしかったのは、すぐ友達にな、てくれたから。
大野木場小に、かえってきたときも、明るくむかえてくれた。
・学校が、やけたのか、とてもくやしい。そのおかげで、てんこうしていった人もいるから。
・ふんかのせいで、家にもたれもいなくて、おじいちゃんおばあさんのかえるのを、ま、てい、ないといけなからい。や。

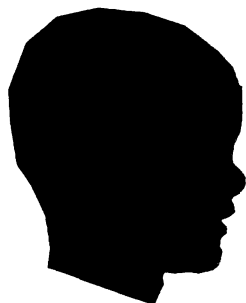
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）










大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

かせつばせまいから家にもどれてうれい



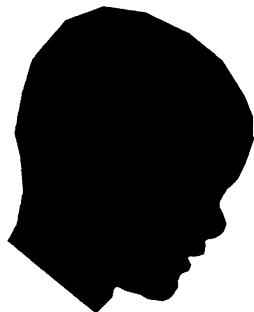
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

とても「ちが」ちがくになってちがってうれしかった。



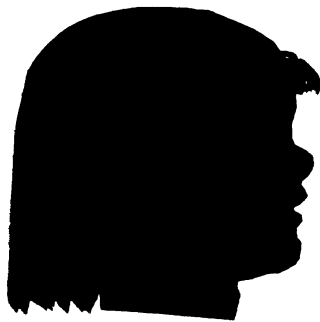
文で書きにくければ、絵をかくてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	 ひなん生活	
 かせつ校舎	 ヘルメット、マスク、ゴーグル 家族がバラバラに暮らすことになった 灰の中の生活 学校をやめた	 学校をやめた
	 友だちが転校した 小学校までかよった 家をかわった 山のようすがかわった	



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

みんなといっしょにおふろにはったり
友だちがすぐそばにいたのしかった。

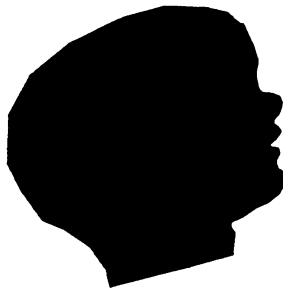
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

			ちょっといや			とてもいや		

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



お母さんがいなくなったので、うれしかったのはお母さんがいつもいるからであ
バス通学はみんなといっしょにできるから
であ。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

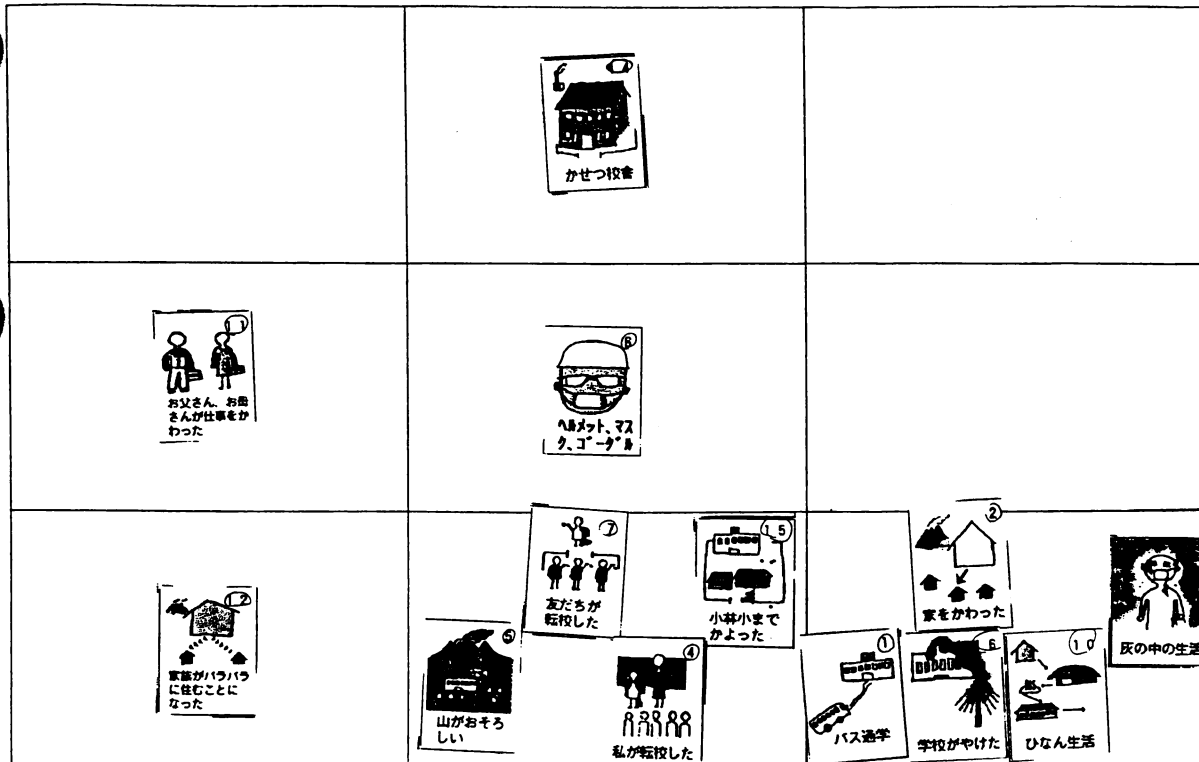
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

あたらしい、ゆうぐやかせつこうしゃ
が、できたからうれしかったです。



文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

もとの家にもどれてうれしいっ

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

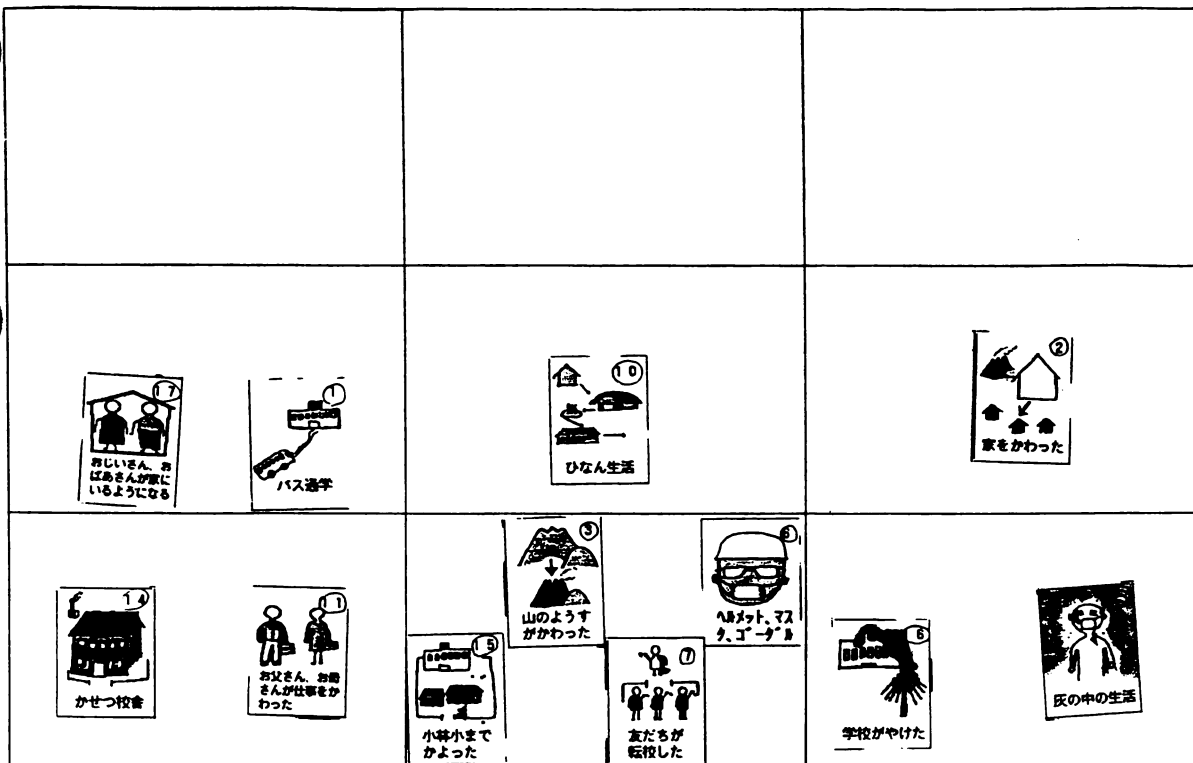
大野木場小学校 (4)・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



ひなん生活の時みんなとおえたことがちょっとうれしい。
おじいさんやおばあさんが家にいるようになったらうれしい。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 (4・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 かせつ校舎	
 バス通学	 友だちが転校した	
	 山がおそろしい	 山のようすがかわった 家にだれもいない ヘルメット、マスク、ゴーグル
	 ひなん生活 家をかわった 灰の中の生活 学校がやけた	



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



友だちが転校して、いったけど、友だち
になったからちょっとうれしかった。
もとの学校が、もえてしまったけど、かせつ校
舎で、さめるだけで、とてもうれしい。

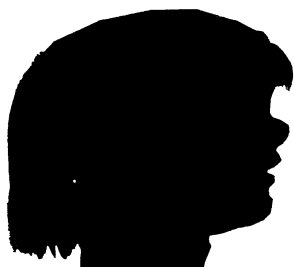
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 かせつ校舎 小神小までかよった	
 バス通学	 家をかわった ヘルメット、マスク、ゴーグル ひなん生活	 山のようすがかわった 学校がやけた 山がおそろしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



おじいちゃん、おばあちゃんが、家にいてくれるからうれしい
かせつこうほでもたのしいからうれしい。

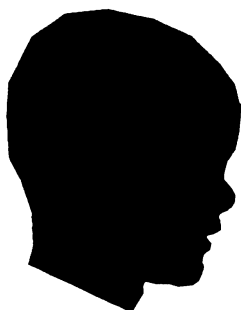
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる									
 私が転校した	 お父さん、お母さんが仕事をかわった	 かせつ校舎	 家をかわった	 家にだれもいない	 山がおそろしい	 ハンダット、マスク、ゴーグル	 ひなん生活	 灰の中の生活	 学校がやけた
			 友だちが転校した	 家裏がバタバタに住むことになった	 小林小までかよった				



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

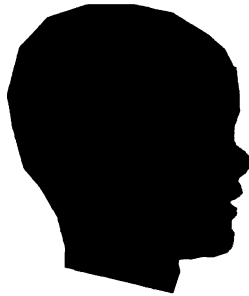
おばあちゃん、いつしよに、大のてがいて
いけるからうれしい。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校 ④・5・6 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 家をかわった	
 バス通学	 小学校までかよった	 ヘルメット、マスク、ゴーグル
 ひなん生活	 灰の中の生活	 学校がやけた



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

バスにのって、もたうちをしやべったこと

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

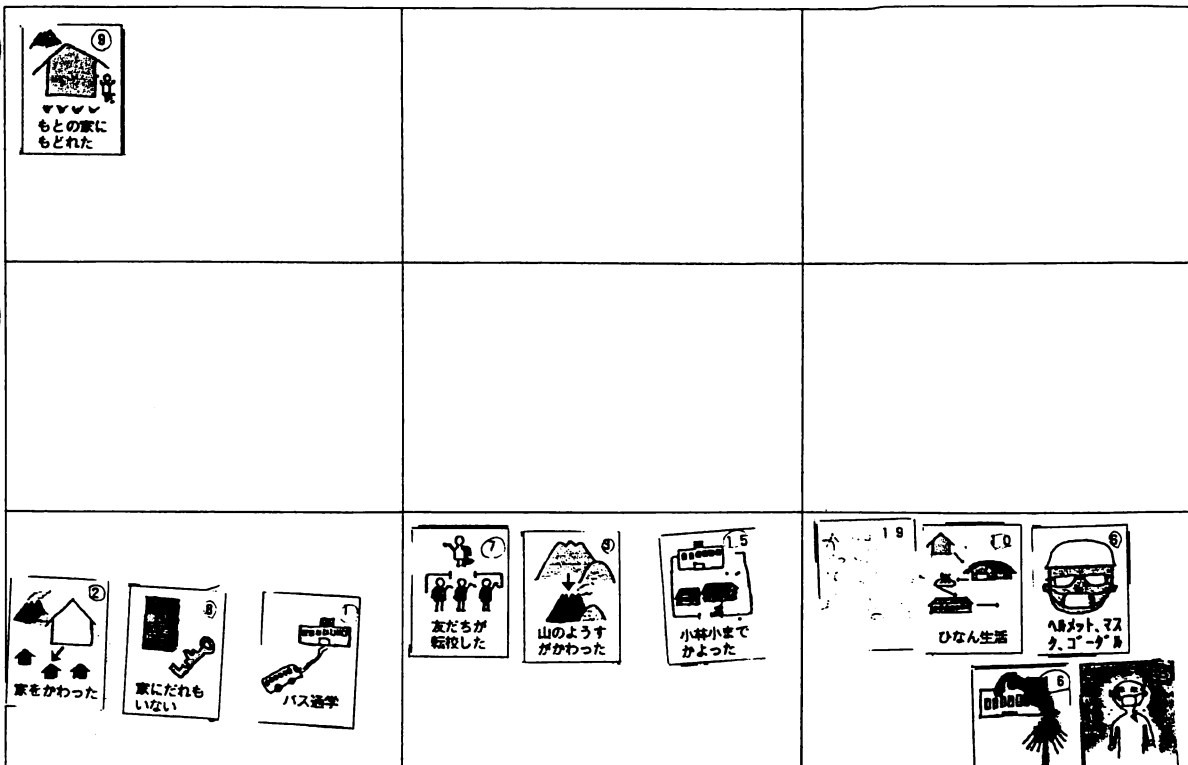
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



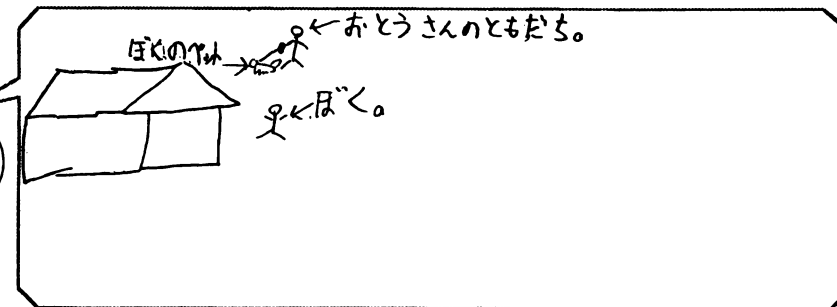
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

ぼくが、シールをうごかそうとしたとき思い出した
ことは、いなくなったペットが、お父さんの支え
にひそめていたことを思い出した。



文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	 かせつ校舎	
 山のようすがかわった 小村小までかよった	 ひなん生活 家をかかわった 友だちが転校した	 灰の中の生活 ヘルメット、マスク、ゴーグル 学校がやけた



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

わたしは、ひなんをしたり、かせつ校舎で勉強をまだまたしな
ければいけないんだなと思いました。

まえば、学校にいくときもかえると、ヘルメットやマスクなどを
はめていったりしていたことを思い出しました。



文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



 ① バス通学	 ② 家をわった	 ③ 山のようにがわった
	 ④ かせつ校舎	 ⑤ 小林小までかよった
	 ⑥ 家をわった	 ⑦ 友だちが転校した
	 ⑧ 家にだれもいない	 ⑨ ひなん生活
	 ⑩ 灰の中の生活	 ⑪ 学校がやけた

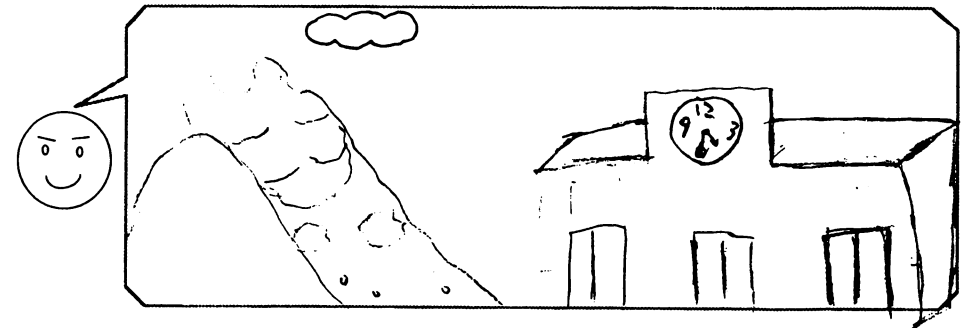
ちょっといや

とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

私はやける前の大野木場小学校のことを思い出して
「ふが全部わるい」と感じたりしました。

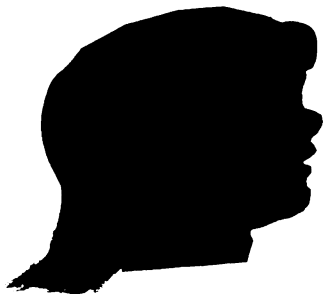
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	バス通学	
ひなん生活 かせつ校舎	家をかわった ヘルメット、マスク、ゴーグル 友だちが転校した 小林小までかよった	山のようすがかわった 灰の中の生活 学校がやけた



ちよっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

私たちはあるいて学校へかよっていたのがバス通学になつてうれしく感じた。



文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・⑤・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

		 ひなん生活	
 バス通学	 家をかわった	 家にだれもいない 灰の中の生活 山のようすがかわった	 小村小までかよった 学校がやけた 家がやけたこと 友だちが転校した



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

友達といっしょにあそんだ）ごはんを
食べたりしたこと（ひなん生活）

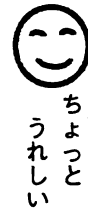
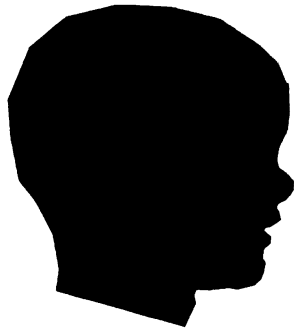
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年





このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



せまいかせつで遊ぶ場所がなく
て家にもどられる時はうれしかった

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



小浜に来て、りかんにくまて、小浜で
いろいろして遊んだから、ちょこ
うれしかった。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



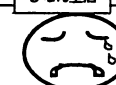
とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

わたしは、家においちゃんおばあちゃんがいるようになったことを思い出した。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・⑤・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 ひなん生活	
 バス通学	 家をかわった 友だちが転校した 灰の中の生活	 山のようすがかわった ヘルメット、マスク、ゴーグル 学校がやけた
	 かせつ校舎 小森小までかよった	



ちょっといや



とてもいや

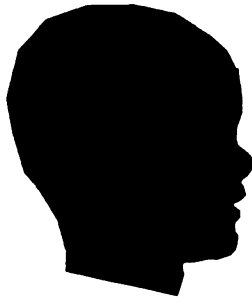
このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・⑤・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



お母さんは、かいしゃをやめて家にいつもいると
お思ったらお父さんのしごとで電話ばんや
しているから、かえりがおそいときもあるけ
ど、お母さんのしごとはおもしろい。

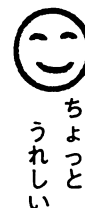
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



バス通学 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる		
家がかわった	ヘビ、マウス、ゴキブリ	
私が転校した ひなん生活 かせつ校舎 小林小までかよった 山のようすがかわった 山がおそろしい 友だちが転校した お父さん、お母さんが仕事をかわった 灰の中の生活 家がバラバラに住むことになった 学校がやけた いえがやけた		



このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



バス通学をふつうからちょっとうれしにあげた
ときに思ったことは、はいの中をあるいてかえら
なくていいからちょっとうれしと思てあげた
家をかわったをちょっといやからちょっとうれし
にかえたのは家がかわってありあけにい
ってたぶんともだちがでたから
ですおじいちゃんおばあちゃんがいえにいます
もふつうからちょっとうれしにかえたのは、トランプでかできるから

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日 (木)

大野木場小学校 (4・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	 ひなん生活	
 小林小まで かよった	 山のようす がかわった	 家にだれも いない
	 かせつ校舎	 友だちが 転校した
	 家をかわった	 学校がやけた
	 ヘルメット、マス ク、ゴーグル	 灰の中の生活



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
まりもさんはどんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

ひなん生活は、ちゅうかんセンターやうぐいすりょかん
にひなんしたとき、家の生活は、いやでもなかつたし
べっぴんそうでもありませんでした。
思ったことは、うぐいすりょかんではほとんどの人たちと
あつたこと、そのとき感じたことは、新しいいえにかえ
れないのかなあということ。
いまはかぜつにうんでいるけど、ほんとうのいえのほうか
のんびりして、うせまていいです。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

<div data-bbox="880 114 968 247"> <p>20</p> <p>いふなとこ 30から がきた</p> </div>		
	<div data-bbox="1267 365 1367 498"> <p>①</p> <p>バス通学</p> </div>	<div data-bbox="1665 373 1765 506"> <p>10</p> <p>ひなん生活</p> </div>
<div data-bbox="891 616 990 749"> <p>⑤</p> <p>小林小まで かよった</p> </div> <div data-bbox="1002 616 1101 749"> <p>⑥</p> <p>家にだれも いない</p> </div>	<div data-bbox="1267 616 1367 749"> <p>④</p> <p>ヘルメット、マス ク、ゴーグル</p> </div> <div data-bbox="1378 616 1477 749"> <p>③</p> <p>灰の中の生活</p> </div> <div data-bbox="1488 616 1588 749"> <p>③</p> <p>山のようす がかわった</p> </div> <div data-bbox="1267 757 1367 851"> <p>④</p> <p>かせつ校舎</p> </div>	<div data-bbox="1665 616 1765 749"> <p>19</p> <p>動物が 死んだ</p> </div> <div data-bbox="1776 616 1875 749"> <p>⑥</p> <p>学校がやけた</p> </div> <div data-bbox="1886 616 1986 749"> <p>②</p> <p>家裏がバラバラ に住むことにな った</p> </div> <div data-bbox="1665 757 1765 851"> <p>⑦</p> <p>友だちが 転校した</p> </div> <div data-bbox="1776 757 1875 851"> <p>②</p> <p>家をかわった</p> </div>



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



ひなん生活は、最ネカ おんたそちがうとて 3に
いた から いやだ、たけど かせつにきたら友達
と遊べるようになった。
バス つうがとは、朝方からちがう地区の人と話をで
きるから、変な人（？）のことが わかったから友達
になりたい。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

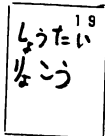





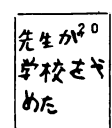
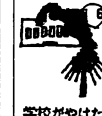


大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

ひなん生活で「みんな」がかわったのは「さばり」にな。たこ
とを思い出した。

学校がめけてと悲しかったのを思い出した。

ふうたい、こうどよその人と「友達」にな。て「友達」ことを思い出した。

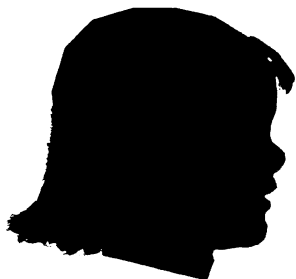
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

m、m、m

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 おじいちゃん、おばあさんが家にいるようになる		
 友だちが転校した	 小林小までかよった	
 バス通学	 私が転校した	 ヘルメット、マスク、ゴーグル ひなん生活 かせつ校舎
		 学校がやけた 山のおそろしい 山のようなすがわった 灰の中の生活 家をかわった



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



おじいちゃんとおばあちゃんがいつも、家にいるようになって、
もううれしいのは、あまり、いっしょにあそべなくて、あまり、あんな
いから、いつも、おじいちゃんや、おばあちゃんが家にいるよ
うになってよかった。

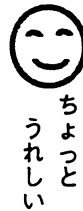
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



<p>お父さん、お母さんが仕事をかわった</p>	<p>小林小までかよった</p>	
	<p>かせつ校舎</p>	<p>ひなん生活</p>
<p>バス通学</p>	<p>友だちが転校した</p>	<p>おいしいさん、おばあさんが家にいるようになる</p>
	<p>へんメット、マスク、ゴーグル</p>	<p>学校がやけた</p>
		<p>山がようすがかわった</p>
		<p>山がおそろしい</p>
		<p>灰の中の生活</p>



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



○お父さん、お母さんが仕事をかわったのをあげて
 かんじなことは、でもつれていってくれるから
 ○小林小までかよったのをあげてかんじなことは、小林
 小となかよくなれね。
 ○家がかわったのをあげてかんじたことは、まえば家
 がまがたけと、いぬをかえて、みんなとちかくれた

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 もとの家にもどれた		
 お母さんがいいよくをする	 バス通学	 ひなん生活
 山のようすがかわった	 私が転校した	 かせつ校舎
 お父さん、お母さんが仕事をかわった	 小林小までかよった	 灰の中の生活
		 家がかわった
		 友だちが転校した
		 家にだれもいない
		 山がおそろしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

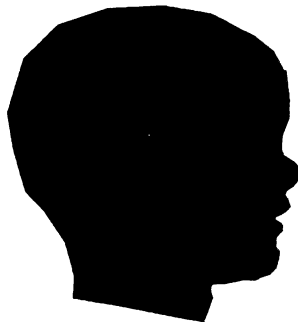
体育かんにひなんして、かせつにはいって、やっともとの
家にもどれたなあ。それがとっても、うれしかった。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年





このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

どうやってしたのかなあ、どうしたのかなあ、おもしろ
かったかなあ、と思いなすいろうごかししました。
（おもしろかった）

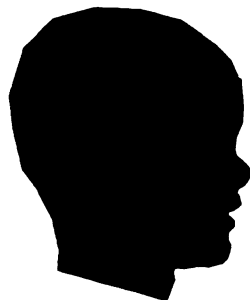
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

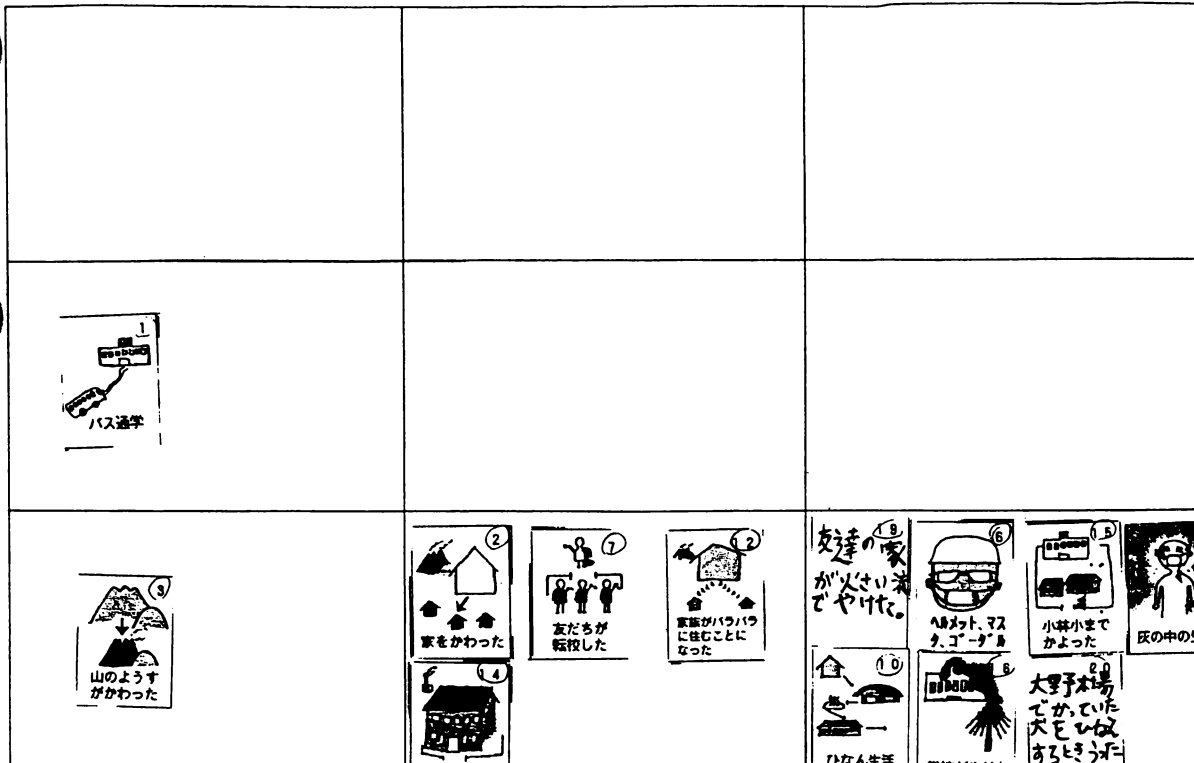
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



バス通学で、けんえいにはじめてうつ
たとき、けんえいから、かせつ校舎まで
あるいていたことを思い出した。

文で書きにくければ、絵をかくてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

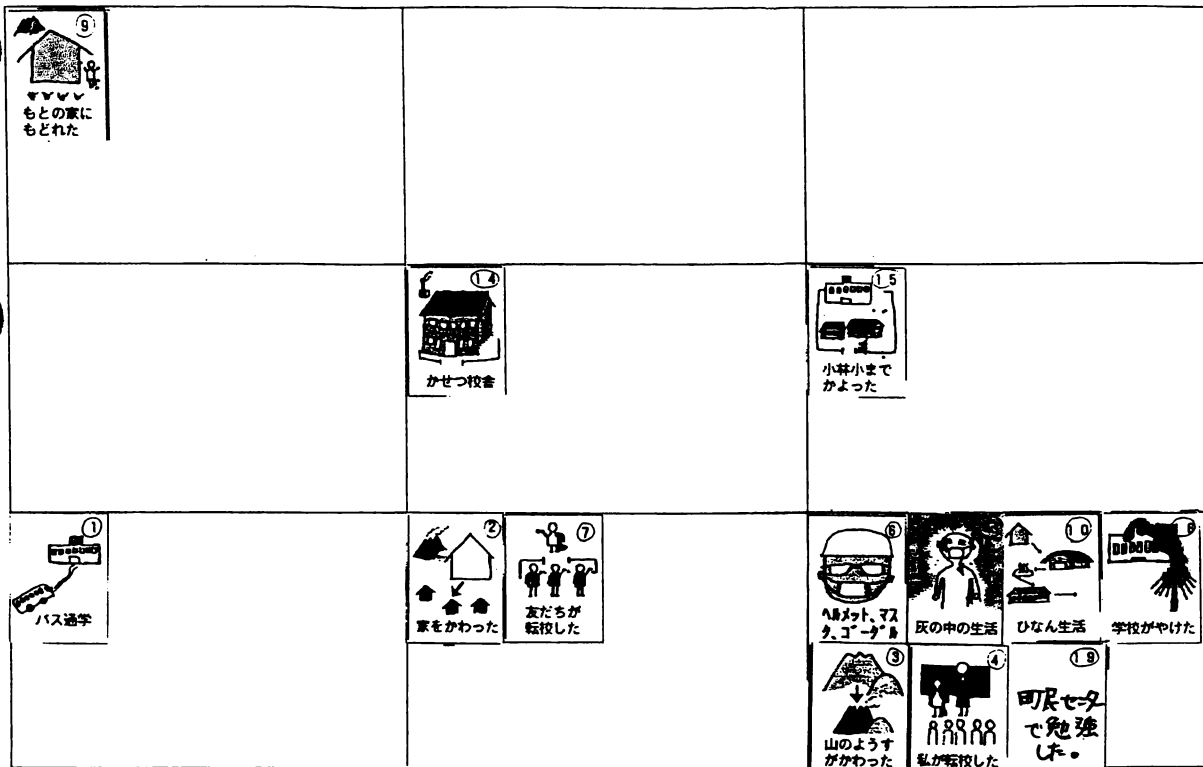
大野木場小学校（4・5・6）年



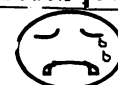
とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



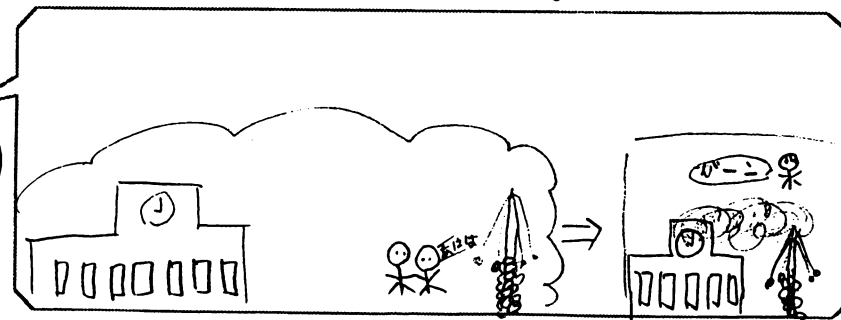
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



もとの家にもどれたときのうれしさを思い出しました。その時はほんとうにうれしかったです。
。私がかかり転校したときは、いやでした。むこうに行っていたのにも、いいこともあり、うごかそうとしたけど、やはりみんなとはなれるのはつらかったです。

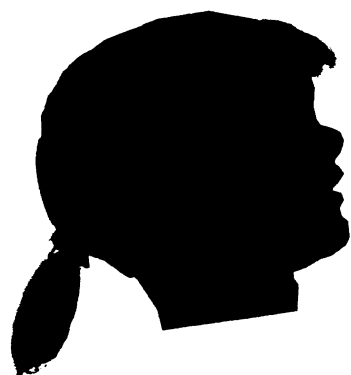
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

19 ととたちと ていようが あそび		
	10 ひなん生活	9 小林小まで かよった
お父さん、お母 さんが仕事をか わった	3 山のように がかわった	1 バス通学
	7 友だちが 転校した	2 家をかわった
	4 かせつ校舎	8 お母さんが ないしよくを する
		6 学校がやけた
		5 ヘルメット、マス ク、ゴーグル
		灰の中の生活



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



「ともだちとあそべるようになった」はかりて
んこうした友達とあそべるようになった
からうれしく思いました
「ひなん生活」は、まいにちみんなとい、しよ
だったから、すこしうれしかったです
「小林小」までかよ、たときははじめきつ、たけど
小林小の人となかよいになれたからすこしうれしかった

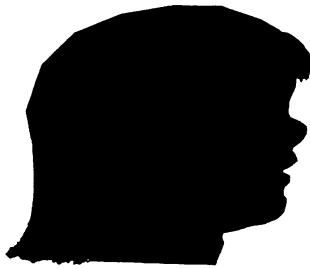
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・⑤・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	<p>おじいさん、おばあさんが家にいるようになる</p>	<p>ひなん生活</p>
		<p>バス通学</p> <p>家をかわった</p>
	<p>友だちが転校した</p>	<p>山のようすがかわった</p> <p>山がおそろしい</p> <p>ヘルメット、マスク、ゴーグル</p> <p>灰の中の生活</p> <p>かせつ校舎</p> <p>小林小までかよった</p> <p>学校がやけた</p> <p>18 家に入られなくなった。</p>



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



①おじいちゃん、おばあちゃんからおばあさんに交代した時、私は飯設にいて、おじいちゃんたちが「やっとてきたのか」と思った。
②ひなん生活の時もとても遠が、たくさんいたのて思った。
③感じたことは、どうして、どんどんこわしくなり、ひんぱんは「所がかわった」感じがしたのを感じました。

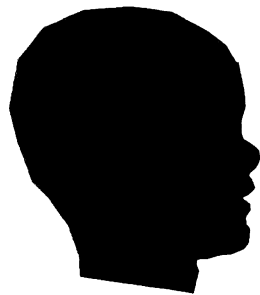
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



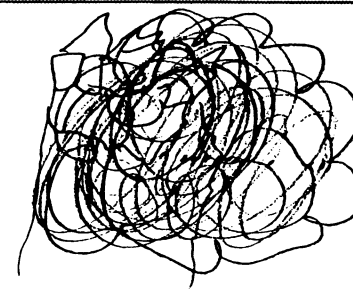
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



ぼくは学校がやけた 9月15日の日をおぼえていて
とてもいやになりました。
家が変わったのは、一人一人ごはんをたべるときにもらって
いる人をみてとてもいやになりました。
灰の中ではそとで遊ぶことができませんでした。

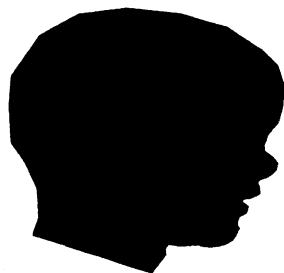
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 バス通学	 おじいさん、おばあさんが家にいるようになる	 お母さんが新しい洋服をする
 かせつ校舎	 ひなん生活	 山のようすが変わった
	 小林小までかよった	 家をかわった
		 学校がやけた
		 ヘルメット、マスク、ゴーグル



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



学木交がやけてもうその学木交でべんきょうや、
あそんだりすることができないから、とてもいや。
ゴーグルしていたら、あまりまねがみえないから、とてもいや。

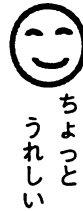
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年





ちょっといや



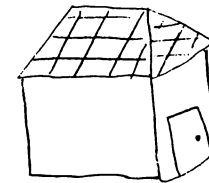
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



ずっと仮設住たくなびて、生活していたので、
やっと、自分の家に帰れて、うれしかったこと。
仮設か、とっても、せまかったので、自分の家に帰
てよかった。

文で書きにくければ、絵をかいでもかまいません。

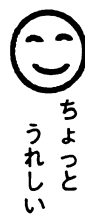
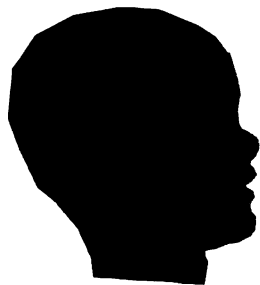


（もとの家に
もどった所）

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年





ちょっといや



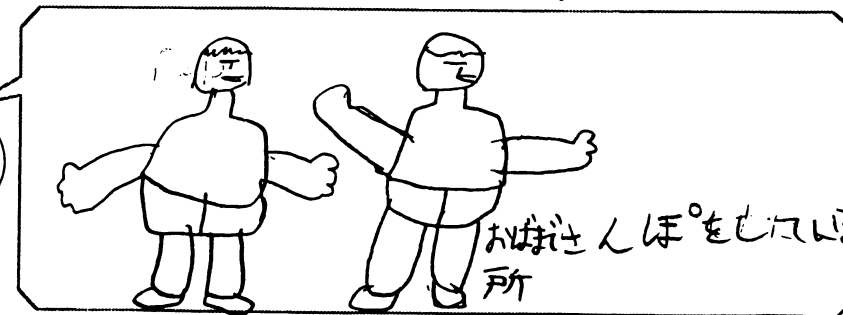
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



いかなん生活でいういろ、いどうしている時に次はとん
なとこかなあと思った
仮設往たくが県営にうつって仮設校舎がと
くなつたと思った

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



おばあさんほをむいてる
所

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

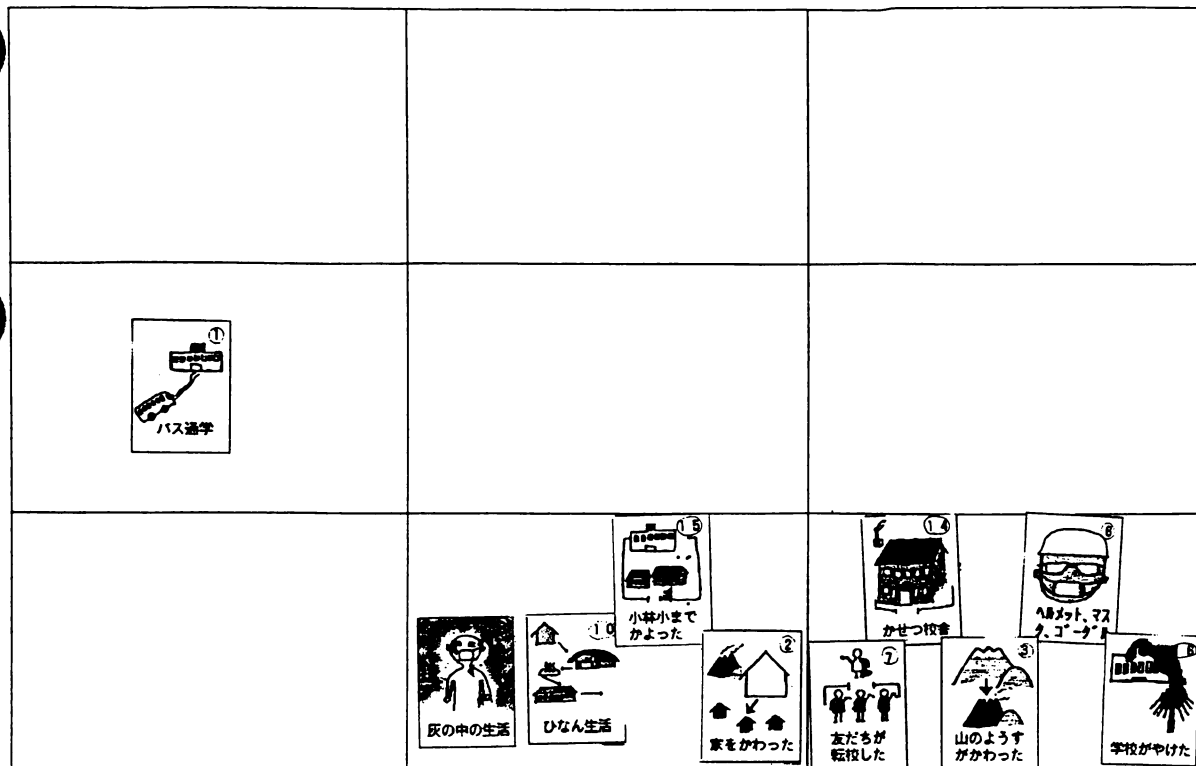
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

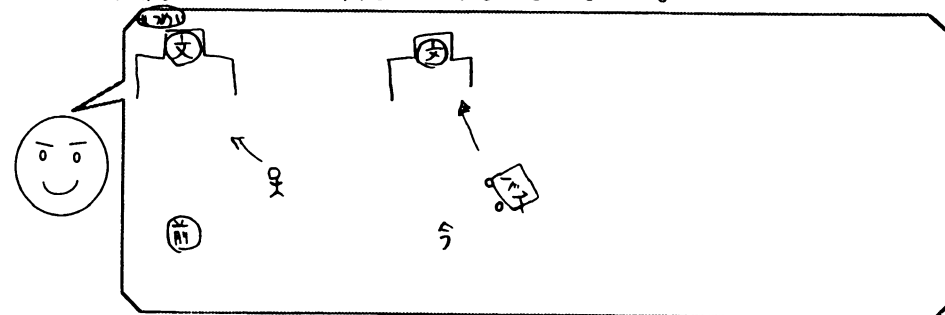
このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

いままでは、学校に あろいてきていたけど、バス通学
に変わったので、ちょっとうれしにした。

もとの学校では、ヘルメットやゴーグル、マスクは、はめなくて
よかったけど、災害がはじまるとヘルメットをかぶらないといけ
なくなったからとてもいやにうごかした。

学校には、たくさん なんでもおいていて、学校がやけたときい
っしょにもえたから、とてもいやにうごかした。

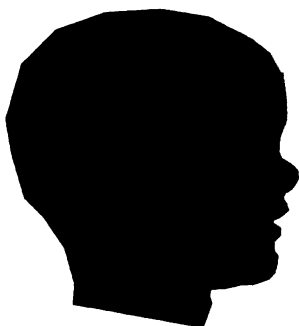
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

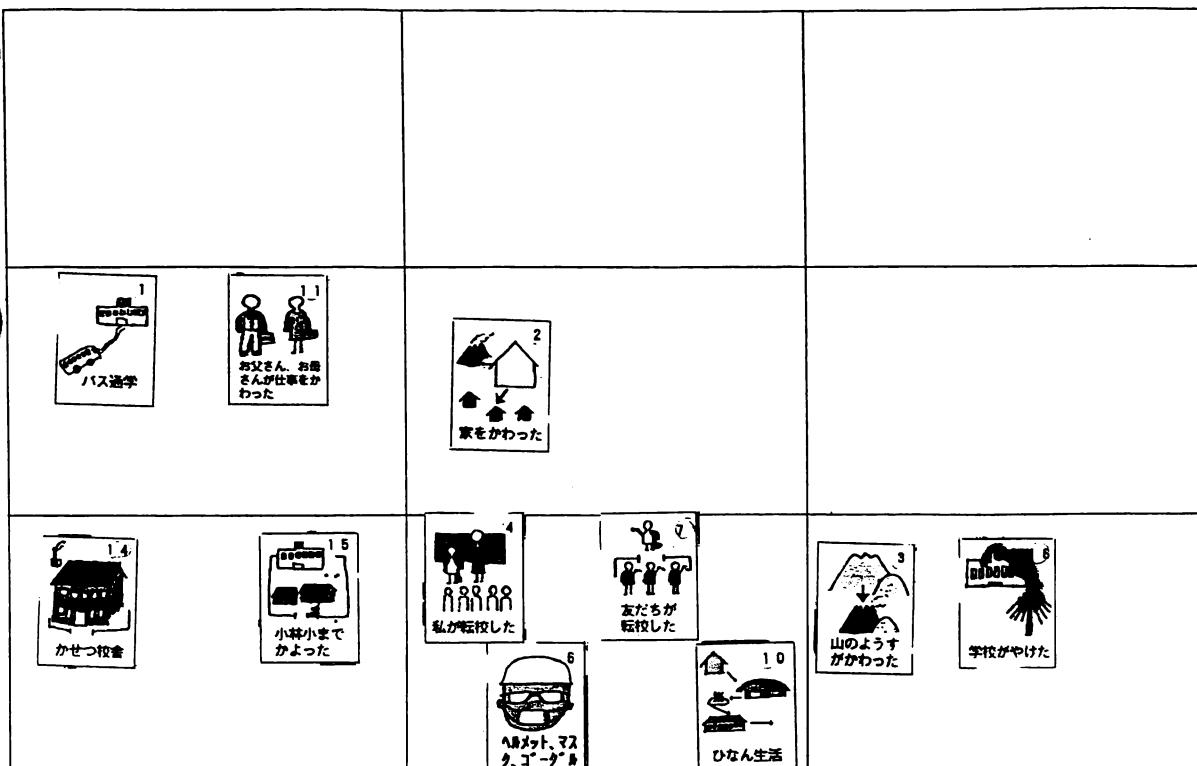
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



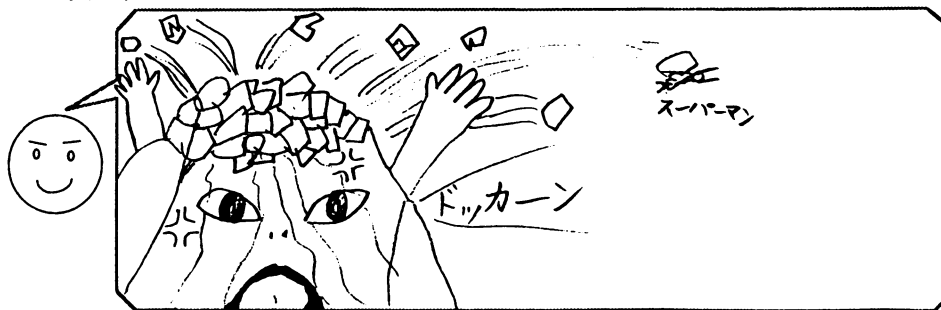
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

学校がやけたのはたくさんの思い出があった大野木場小学校
がやけてしまったからとてもいやだった。

家をかかわって、ちょっとうれしかったのは友達の家がとお
かたのに、仮設にきて、友達の家が近くなったから

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんが仕事をした	 かせつ校舎	 バス通学	 山のようすがかわった	 ヘルメット、マスク、ゴーグル	 家をかかわった	 私が転校した
 家にだれもいない	 小林小までかよった	 灰の中の生活	 学校がやけた	 友だちが転校した		



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



『学校がやけた』が「とてもいや」だったのは、わたしが大好きだったかどわきタワーと教室が「やけてしまったから」
『灰の中の生活』は、ほこりがまっ、のどが「いたくな」ってしまったから。
『家にだれもいない』は、家にかえってもだれもいなかったら、さびしいから、（ふんかしてから、だれもいなくなった）

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

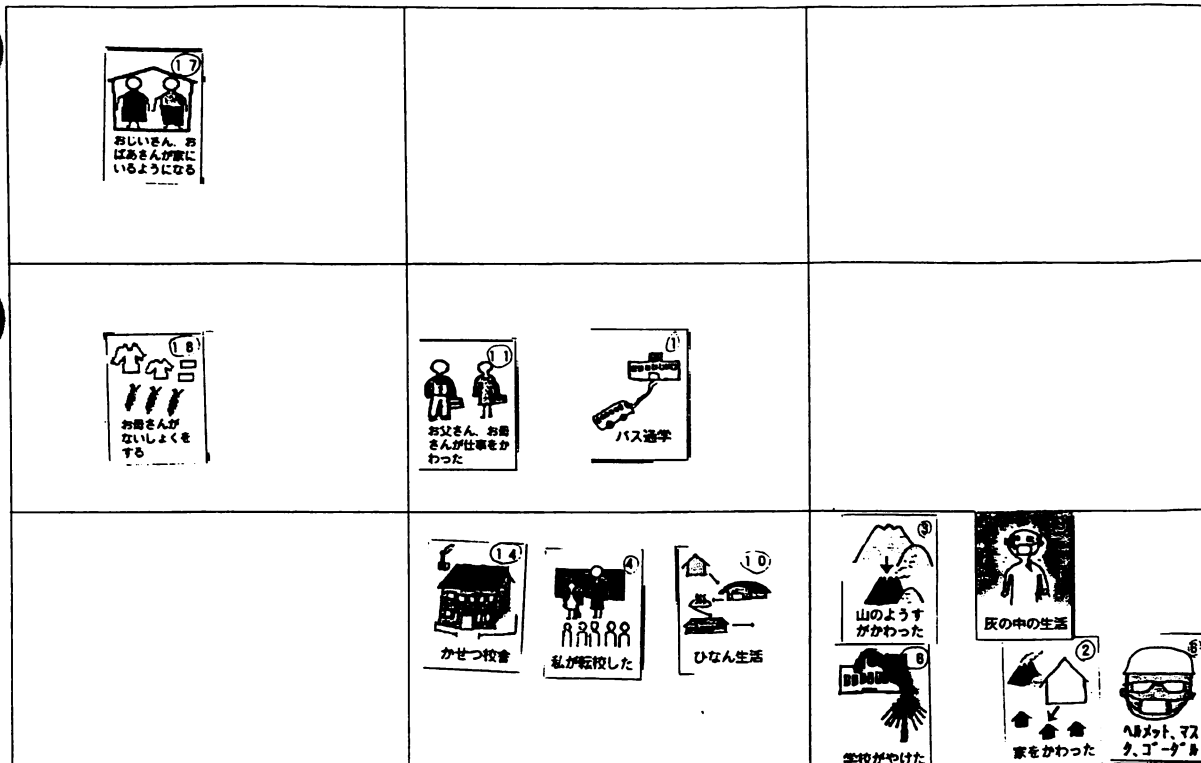
大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

バス通学もあったなあと思い出したからうごかし
た。

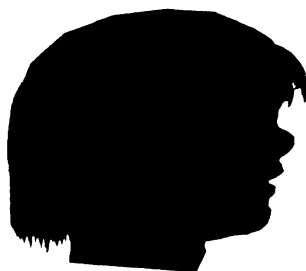
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

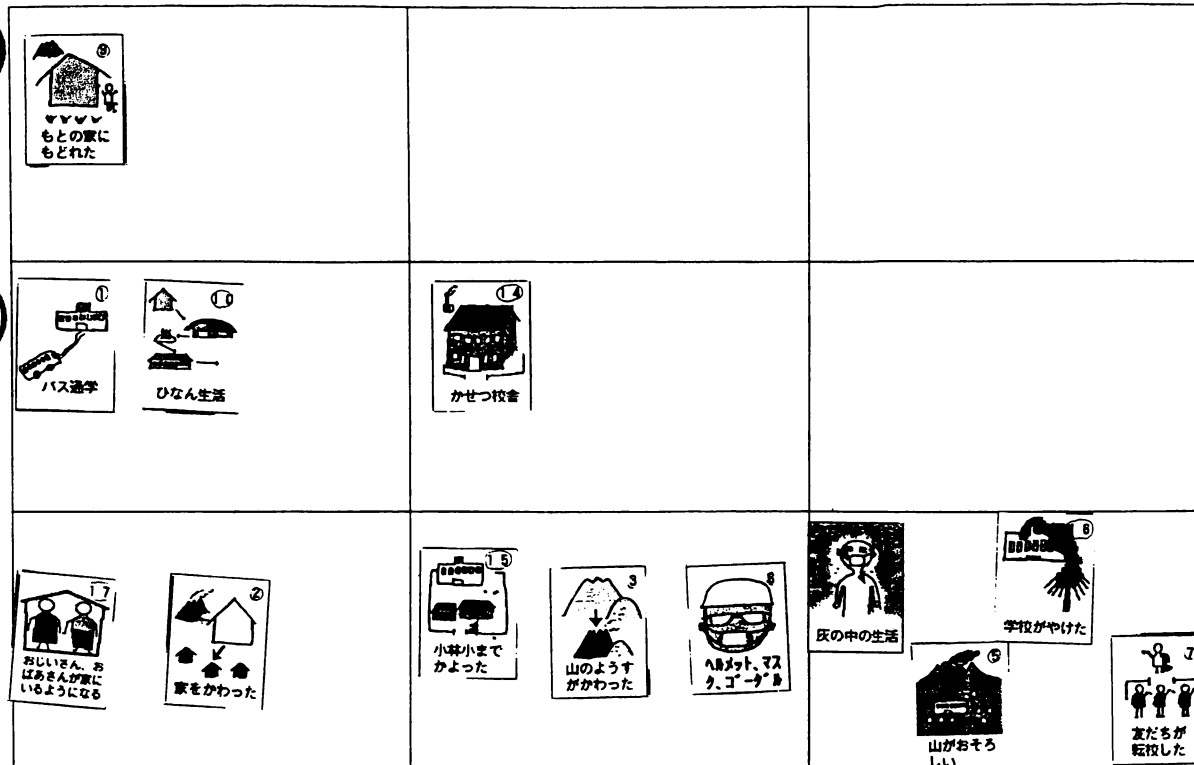
大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちよつと
うれしい



ちよつといや



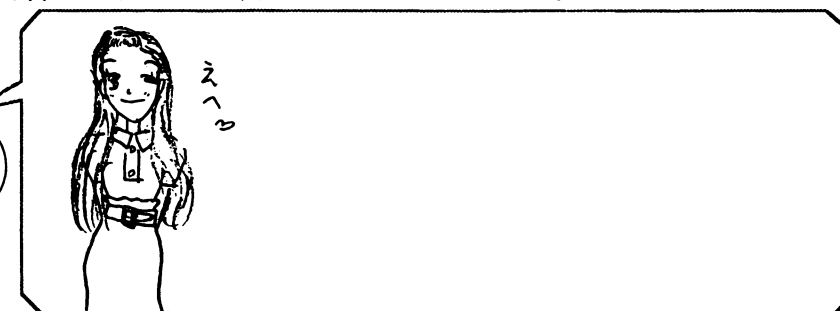
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



・おは「まで」めた「か」とりや、りょかんのこひなと。おは「ま」の
こひを考えていた。
・バスた「と」もう歩かなくてもすむ
・クーラーた「ん」ほ「う」が「つ」りて「る」。
・かせつは、せまくて、こまっていた。
・小林小まで、ずっと歩いて、きつかったこと
・か、こうが「へん」したくはないから（マスク、メガネ）
・のび「つ」いたか、た、かえりたくてもかえらなかつた。
・一番学校が「いい」。

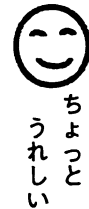
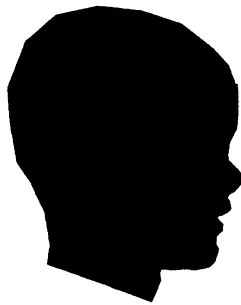
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年





ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

バス通学は、歩いていたのが歩かなくてよかったから
かせつ住宅は、学校から近かったから
家をかわったのは、上げてみようと思ったから



文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

絵



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



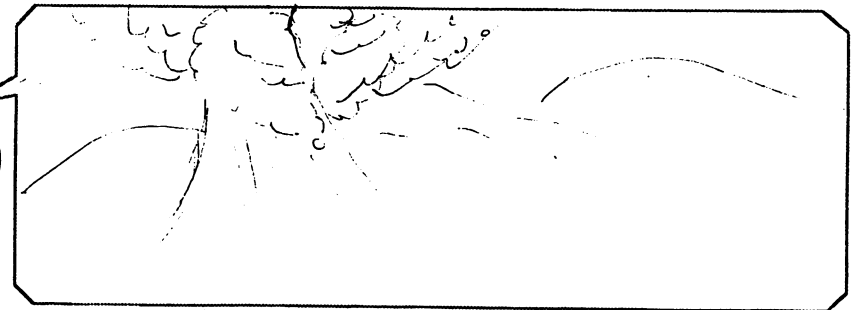
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



「学校がやけてしまつてすごくかなしかったから「学校がやけた」は「とてもいや」にしました。
「もとの家にもどれた」をふつうの「とてもうれしい」にしたのは、やっぱり自分の家にいたほうが安心だから

文で書きにくければ、絵をかくてもかまいません。














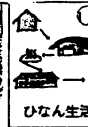





「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・⑥）年



 とても うれしい	 もとの家にもどれた			
 ちょっと うれしい	 バス通学			
	 家をか変わった	 私が転校した	 かせつ校舎	 学校がやけた
	 山がおそろしい	 山のようすがかわった	 小林小までかよった	 友だちが転校した
				 灰の中の生活
				 ひなん生活



 ちょっといや
 
 とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

仮設に住んでいた時、時々もとの家に帰って
いろいろ自由に遊べたし、仮設よりも広いから
本当にもとの家に帰った時は、とてもうれしかったから。
バス通学で人がおおくてきゅうきゅうにつめた時け。
いやだったけど、早く学校に行けるから、ちょっとうれ
しいと思ったから。
灰の中で走ったりしていたら、目や口に入ってとても
いたくてきたないけしかったから。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日 (木)

大野木場小学校 (4・5・6) 年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

もとの家にもどってやっぱり自分の家がいいや
と思、たことを思い出した。
バス通学はさいしよはいやだったけど後で
うてんしゃさんとかと言合しているのがうれし
いから思ったことを思い出した。

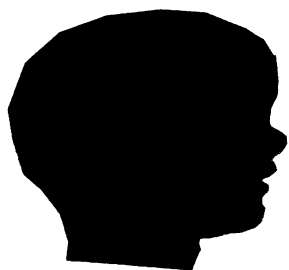
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや

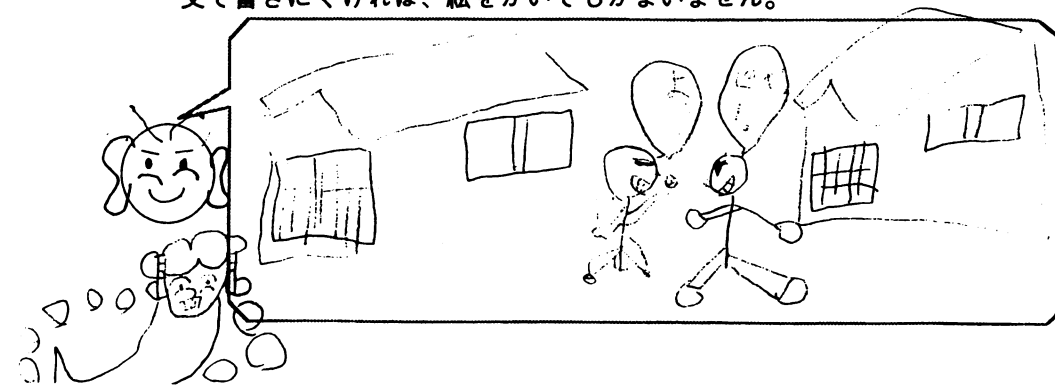


とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

バス通学では、最初あるいていたからよかった。
家をかわってよかったことは、友達がか
ちかくに住むようになったから。
かせつ校舎では、いろいろな人にあった
からよかったです。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

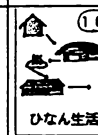
大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



- 家におじいさんおばあさんが家にいてくると家族がみんないっしょになれてうれしいから
- バス通学でいけば、バスの中でみんなとおしゃべりしておもしろいから
- 小林小までいって、その人とお友達になったりしたことかいたのだから

文で書きにくければ、絵をかくてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



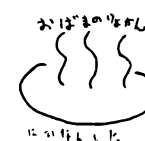
とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



・3年生のとちうまで、と通っていた大野木場小学校が焼
けてしまっ、とてもいやだった。
・大野木場のころは家に、せったいた水かいたけど、ひなん
して、家族がバラバラに住むようになっ、昼などは
家にいなくなった。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



おぼろのや
にがなした

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

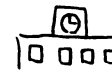
・もとの大野木場小学校がやけてなくなったときは
とてもかなしか、たけれど新しい大野木場小学校が
できて、うれしか、たことを思い出した。

・かせつ校舎かできる前は小林小までかよ、ていたけど
小林小の人たちとともだちになれたことを思い出した。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



とてもいや



とてもうれしい



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

バス通学 お母さんが ないしよくを する	かせつ校舎 小科小まで かよった ヘルメット、マス ク、ゴーグル 山のようす がかわった	家をかわった ひなん生活 友だちが 転校した



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



・とてもいやなのは、今までとちがった学校生活とか、すごしかたがかわったこと。
・ちょっといやは、ヘルメットなど、今までとちがったから、こうとかをして
道などを、あるかないといけなかったから。

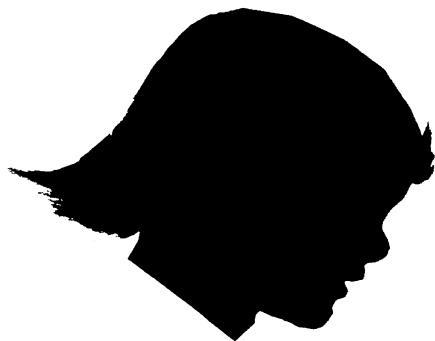
文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・**6**）年



とても
うれしい



ちよっと
うれしい

 お父さん、お母さん、お兄さんが仕事をした お母さんが新しい洋服を着る バス通学	 小森小までかよった かせつ校舎 山のようすがかわった	 灰の中の生活 ひなん生活 学校がやけた 山がおそろしい お母さん、お父さん、お兄さんが家をかいった お母さん、お父さん、お兄さんが家をかいった



ちよっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



山がふんかする前の楽しい生活と今の不安な生活のことや、学校がやけたというのを聞いた時のかなしさ、灰の中で、のどや目かいたかったこと、ひなん生活でいろいろな人としりあたりわかったこと、山のようすがかわったから、もう家へは帰れなくなることなどを思い出しました。だから、うごかそうと思い出しました。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



（家へ帰れない）..

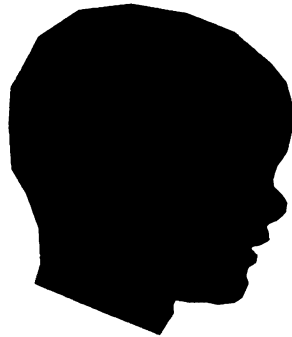


学校がもえた

「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・6）年

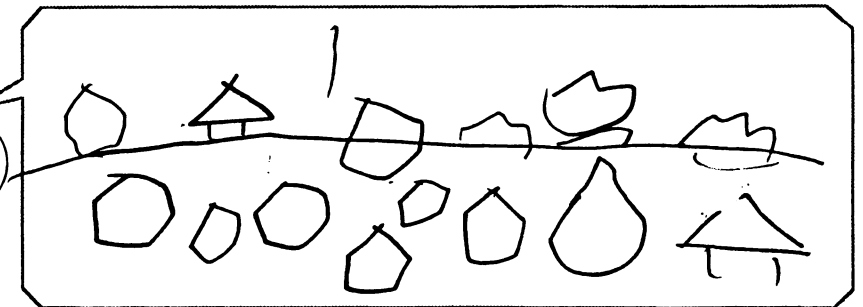


このようにシールをうごかしたり、うごかさうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？



バスでいふときは、クーラーがきいて
いふからちょっとうれしいと感じた
家の中に自分の部屋がもらえたからな
とうれしかった

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）














大野木場小学校（4・5・⑥）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

 もとの家にもどれた			
 お父さん、お母さん、お兄さんが仕事をかわった	 小森小までかよった	 ヘルメット、マスク、ゴーグル	 ひなん生活
	 バス通学	 学校がやけた	 山がおそろしい
	 かせつ校舎	 友だちが転校した	 山のようすがかわった
		 家をかわった	 灰の中の生活



ちょっといや



とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

ヤッター もとの家にもどれた

動物もかえる

みんなもとの家に帰れなくてかわいそうだな

ちょっとふけんかこわいな かせいりゅうかおきてままこまれないかな
家に帰れたのほううれしいけどちょっとふけんかこわかったなあ

もとの学校かもえてとてもかなしかった

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。



「私のくらしとふんか」

1994年9月8日（木）

大野木場小学校（4・5・⑥）年



とても
うれしい



ちょっと
うれしい

	 かせつ校舎	
	 ヘルメット、マスク、ゴーグル 小林小まで かよった	 山がおそろ しい 友だちが 転校した ひなん生活 山のようす がかわった 学校がやけた 灰の中の生活 家をかわった



ちょっといや

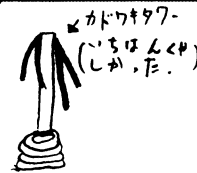


とてもいや

このようにシールをうごかしたり、うごかそうと考えたときに、
どんなことを感じたり、思い出したりしましたか？

学校が焼けてしまった時、もう学校がなくなつたから、
勉強されないのかな？と思つていたけれど、かせつ校舎がで
きて、もとの学校の形じゃないけれど、学校ができて、とうれし
いきもちもあつたけれど、ちょっといやなきもちもでてきた。

文で書きにくければ、絵をかいてもかまいません。

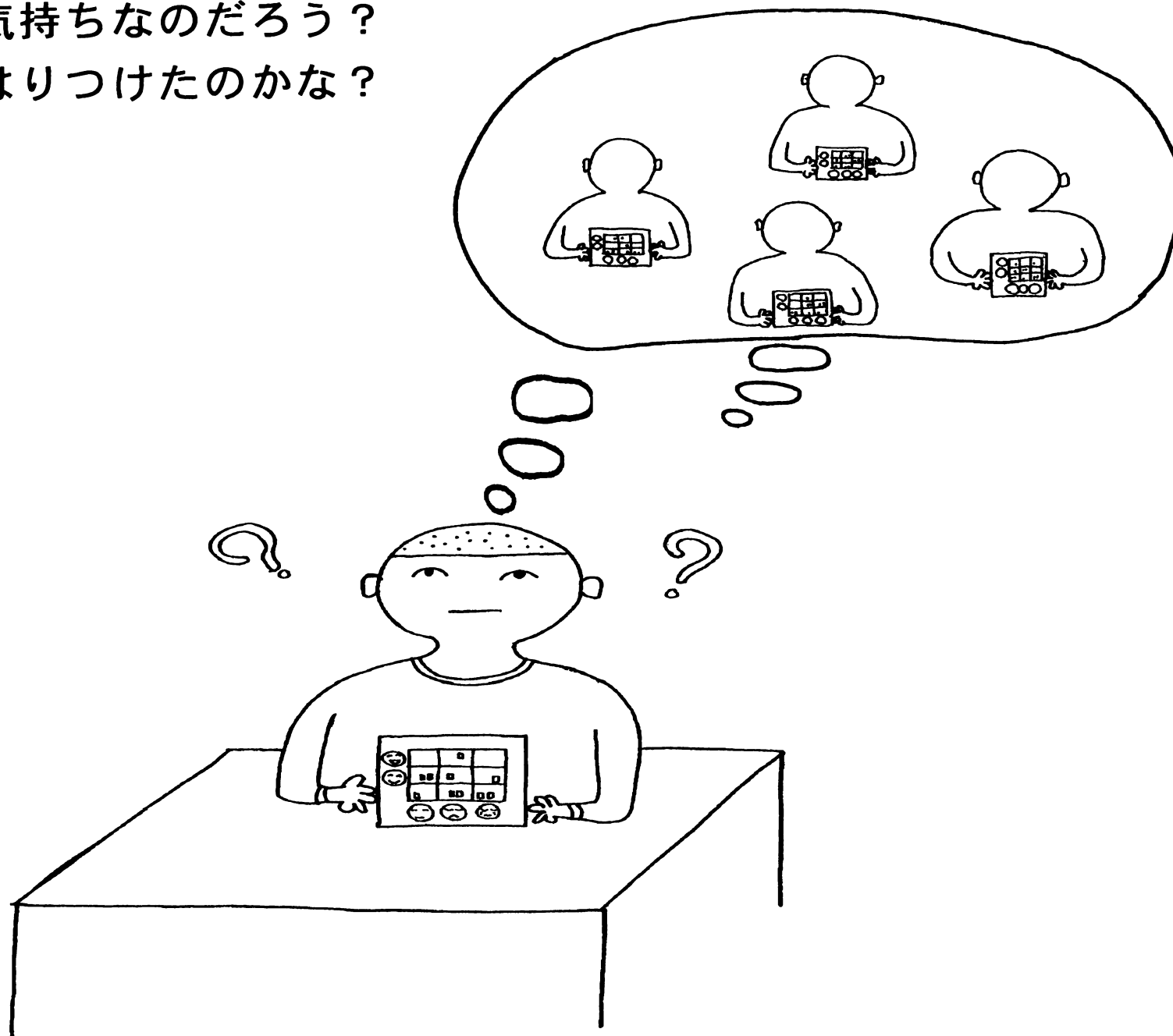


第3章

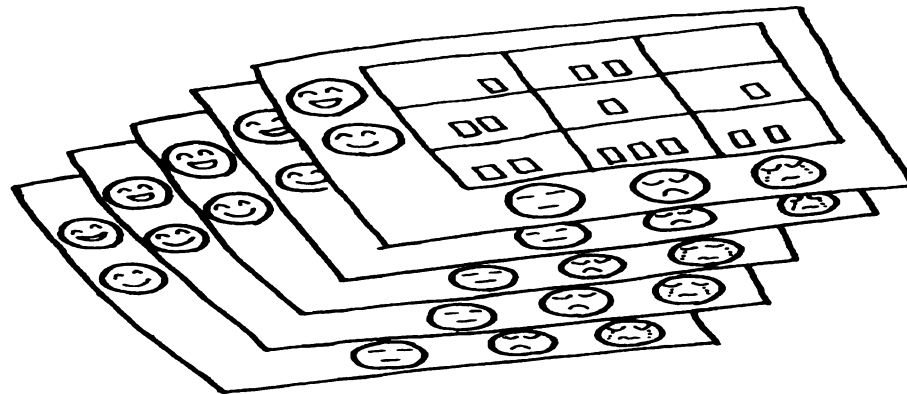
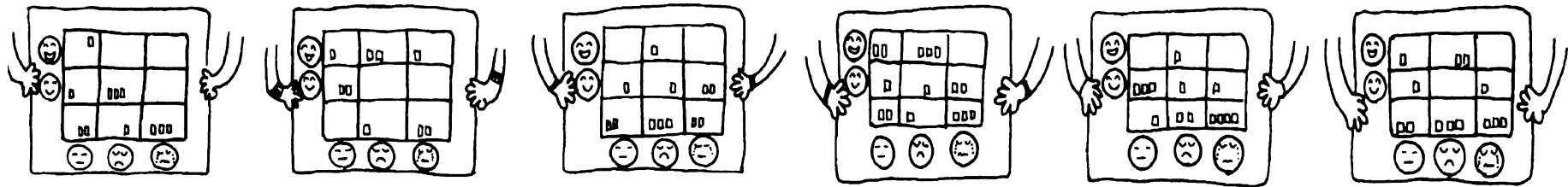
みんなの気持ち

—みんなにとっていやだったこと
たのしかったこと—

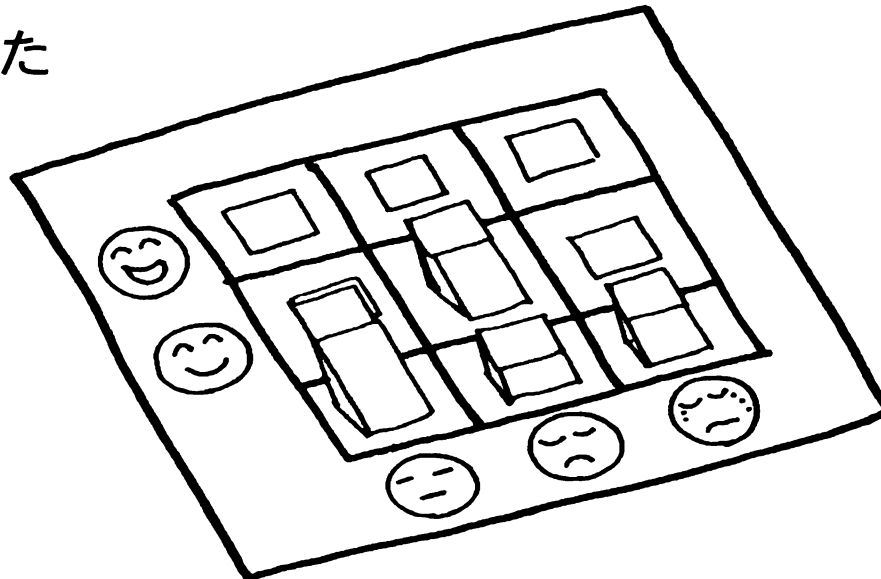
みんなはどんな気持ちなのだろう？
どこにシールをはりつけたのかな？



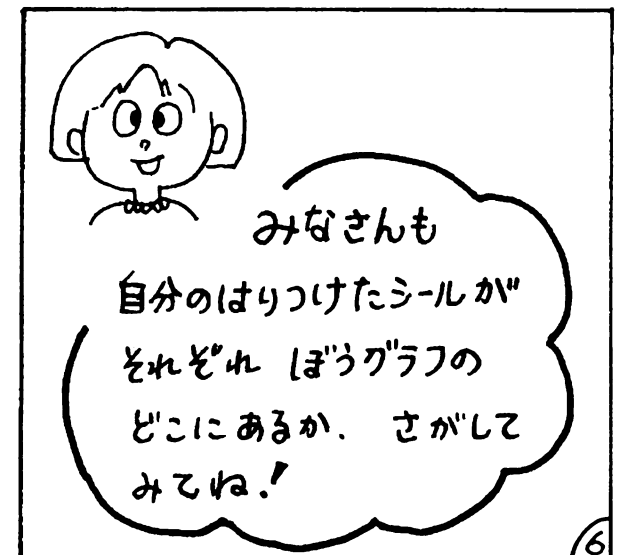
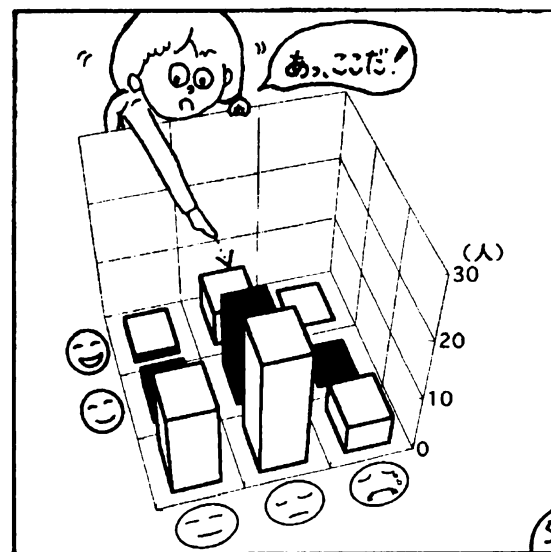
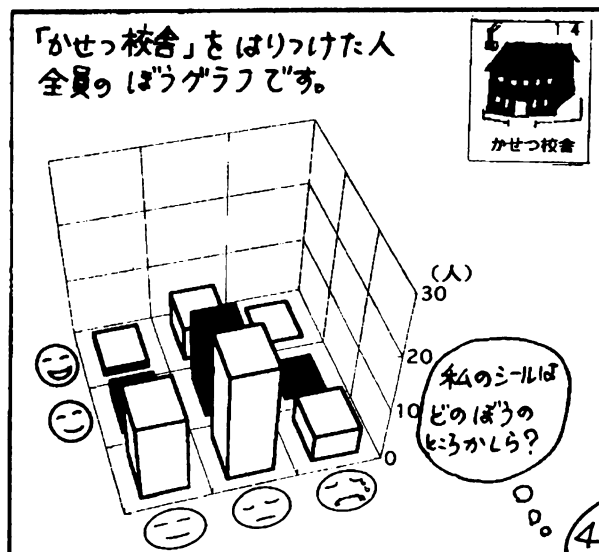
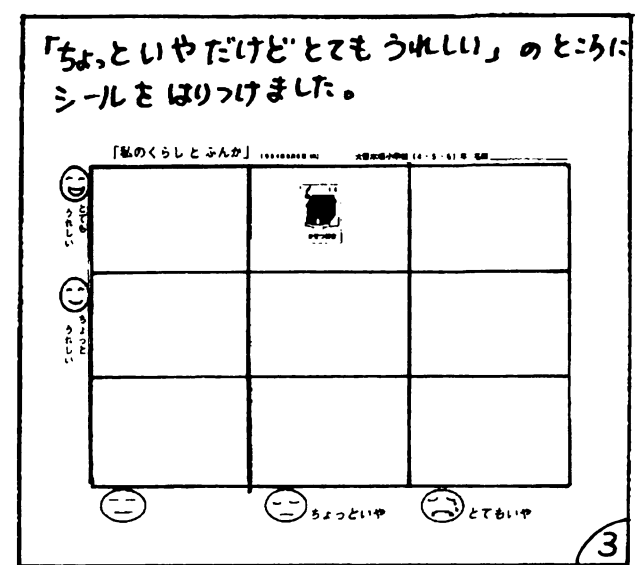
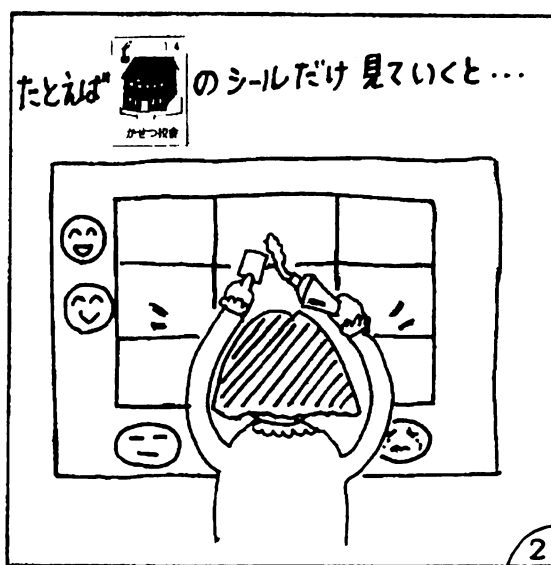
ひとりひとりの気持ち（シール）をかさねてみると・・・



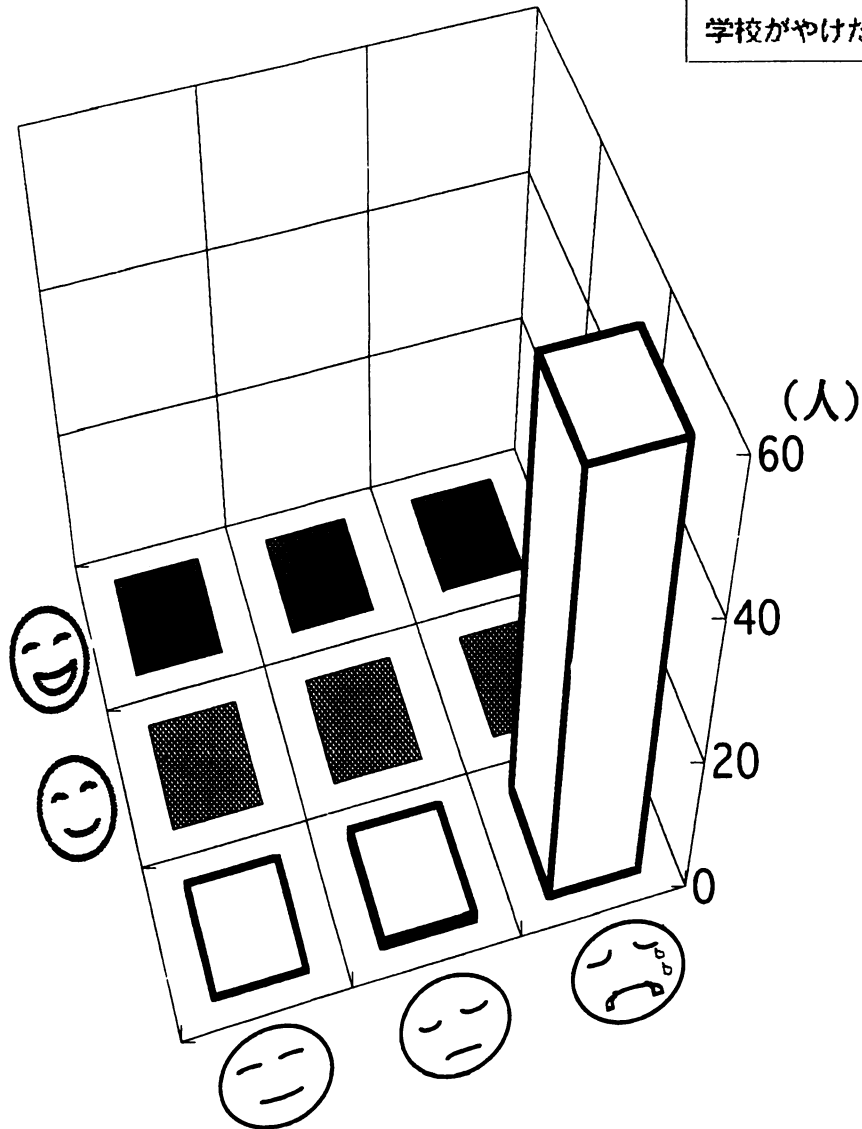
みんなの気持ち
がみえてきた



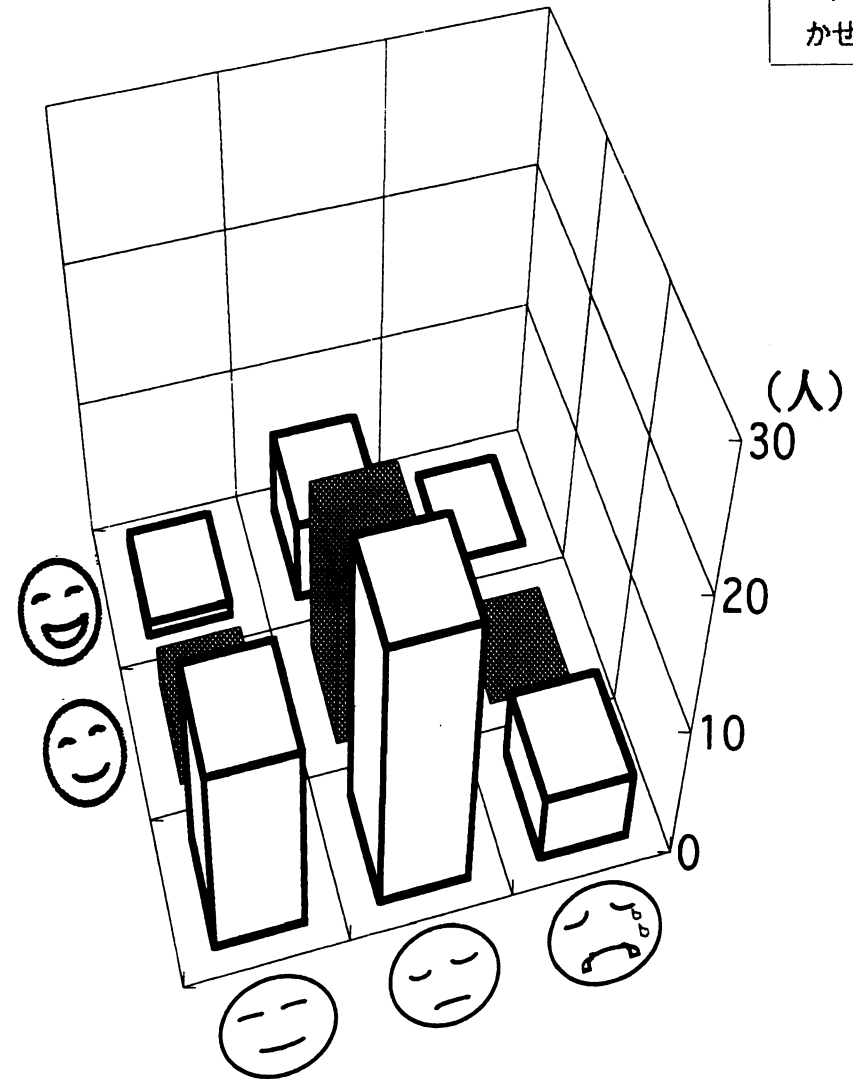
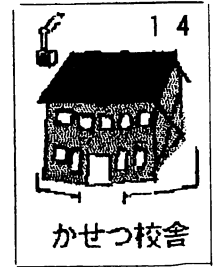
ぼうの高さがぐんぐん
のびている場所は
たくさんの人がシールを
はった場所だよ。



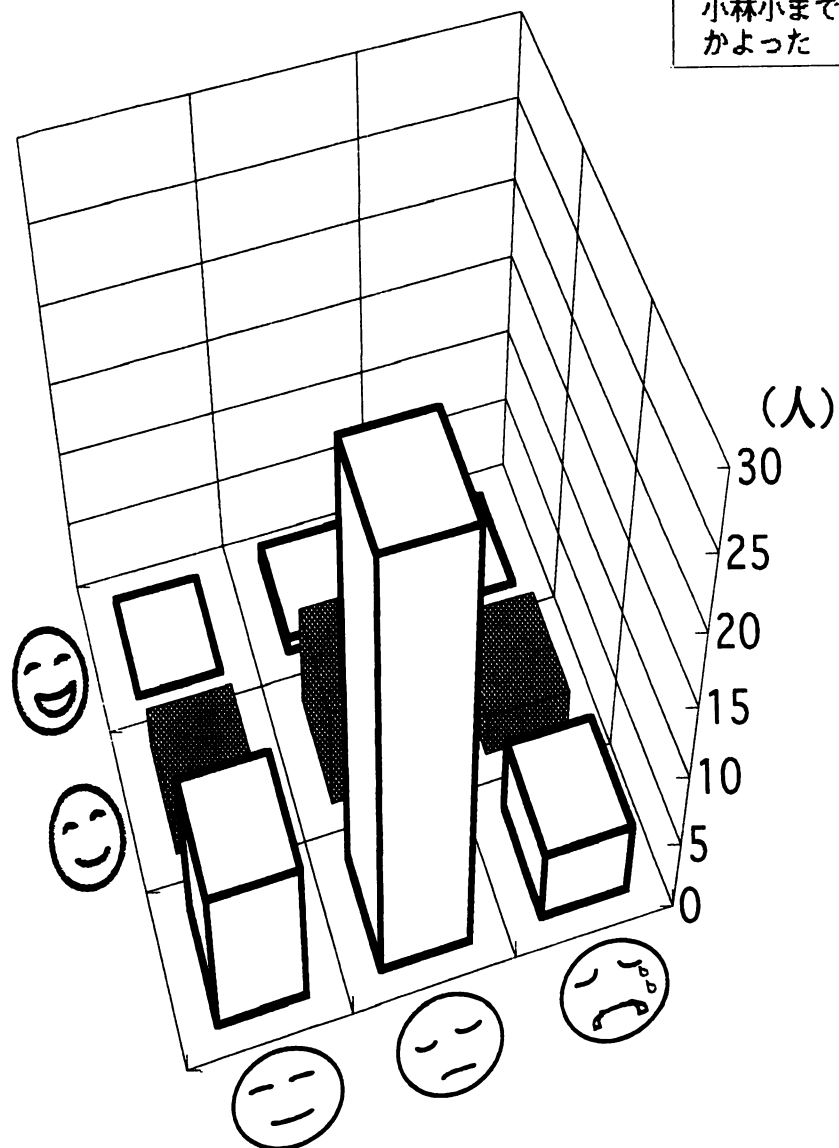
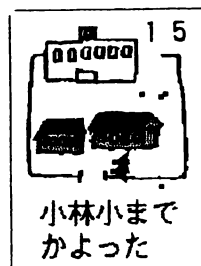
学校がやけた



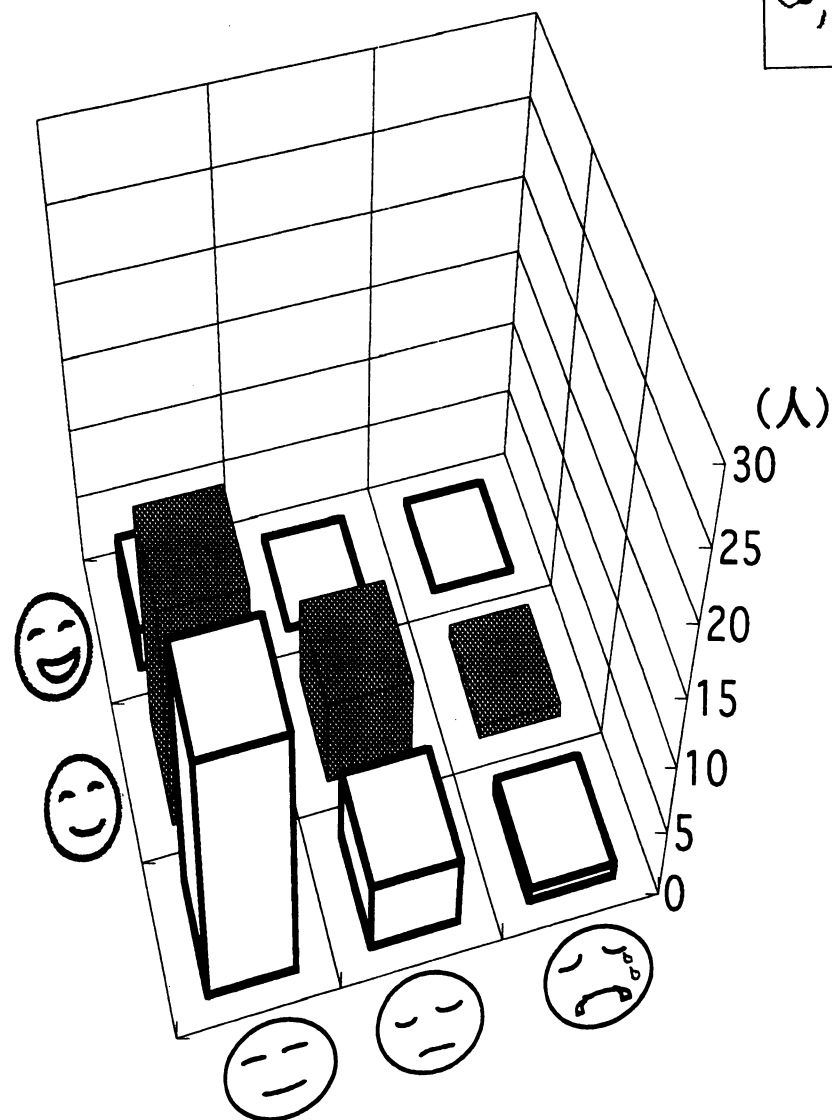
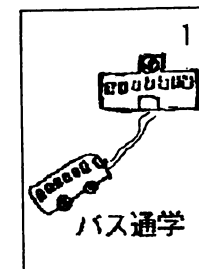
かせつ校舎



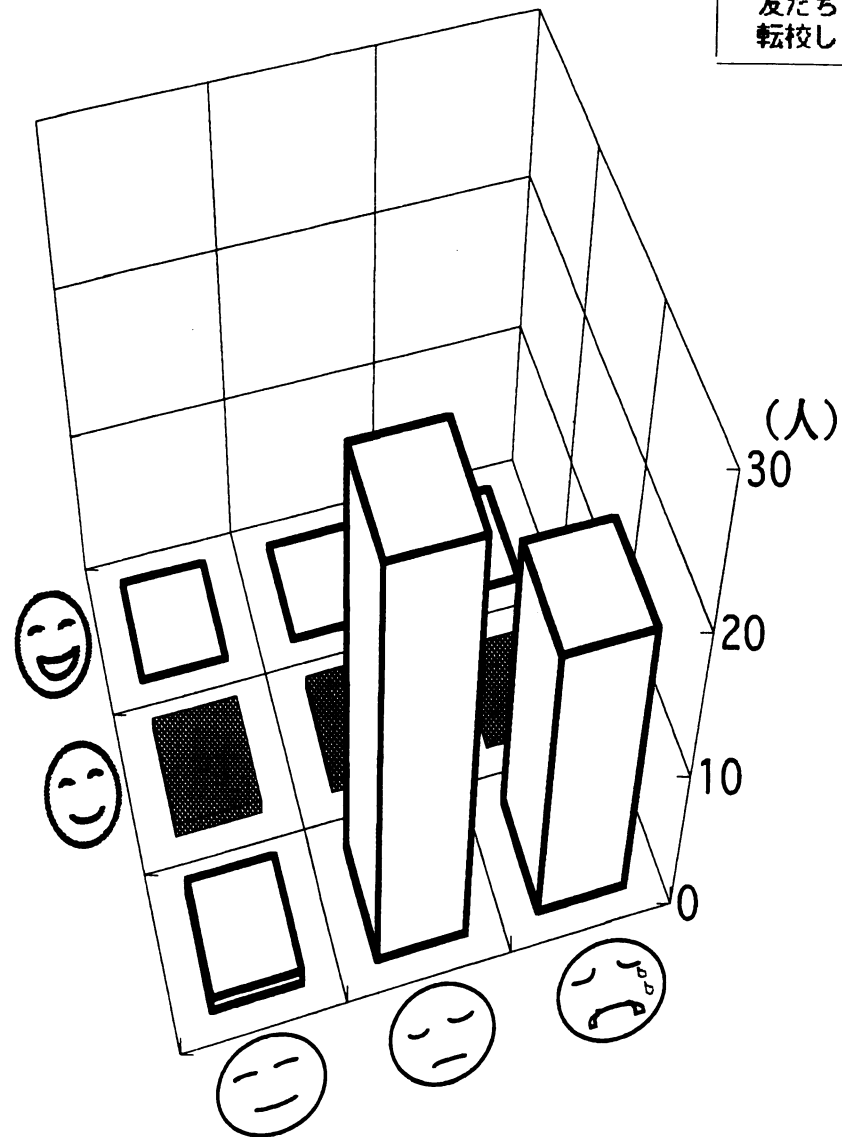
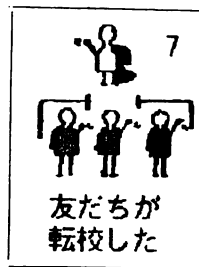
小林小までかよった



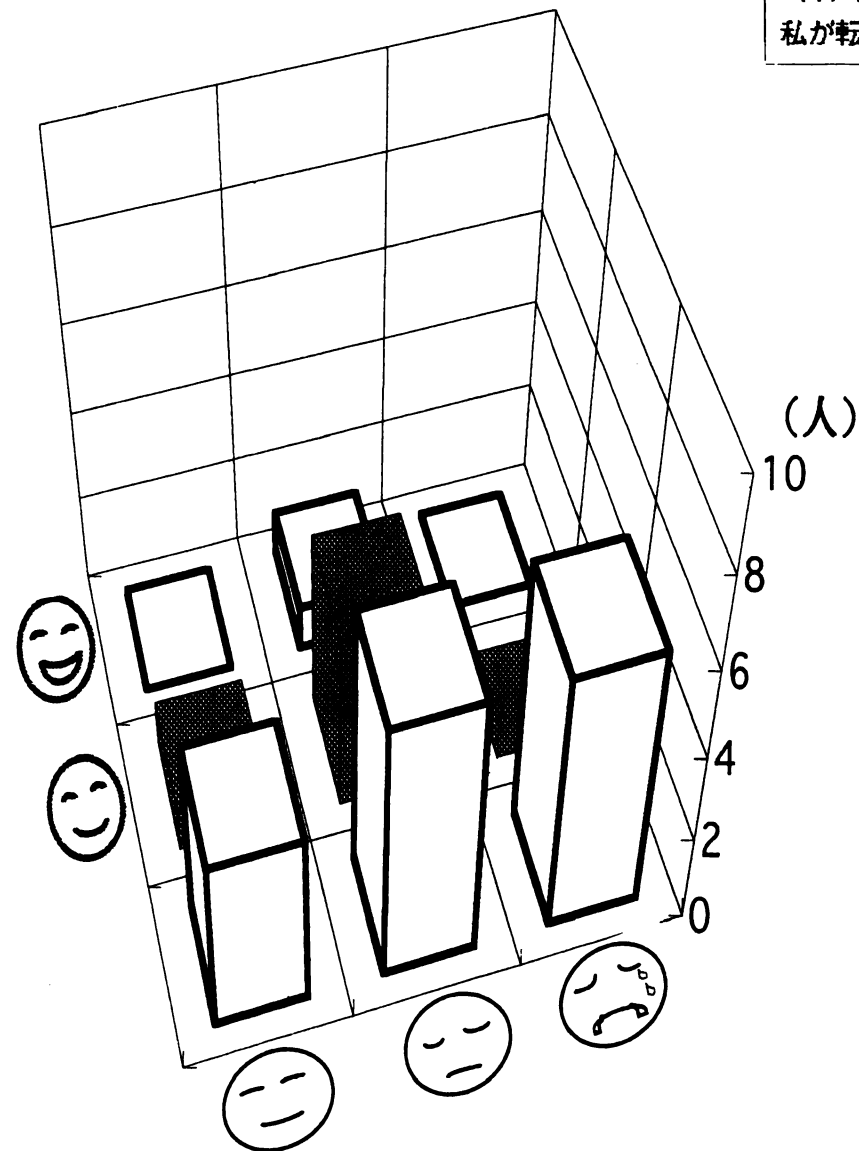
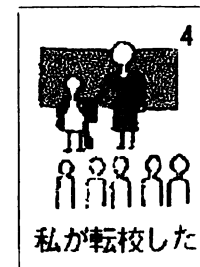
バス通学



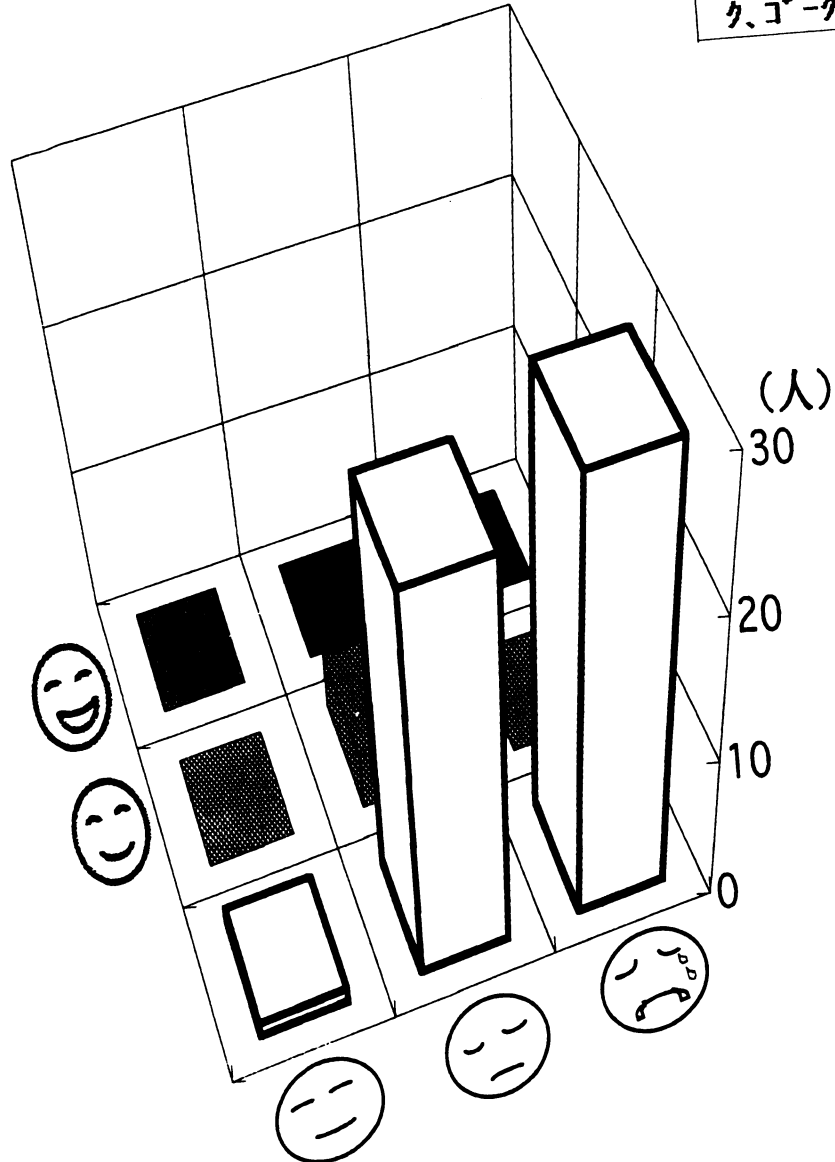
友だちが転校した



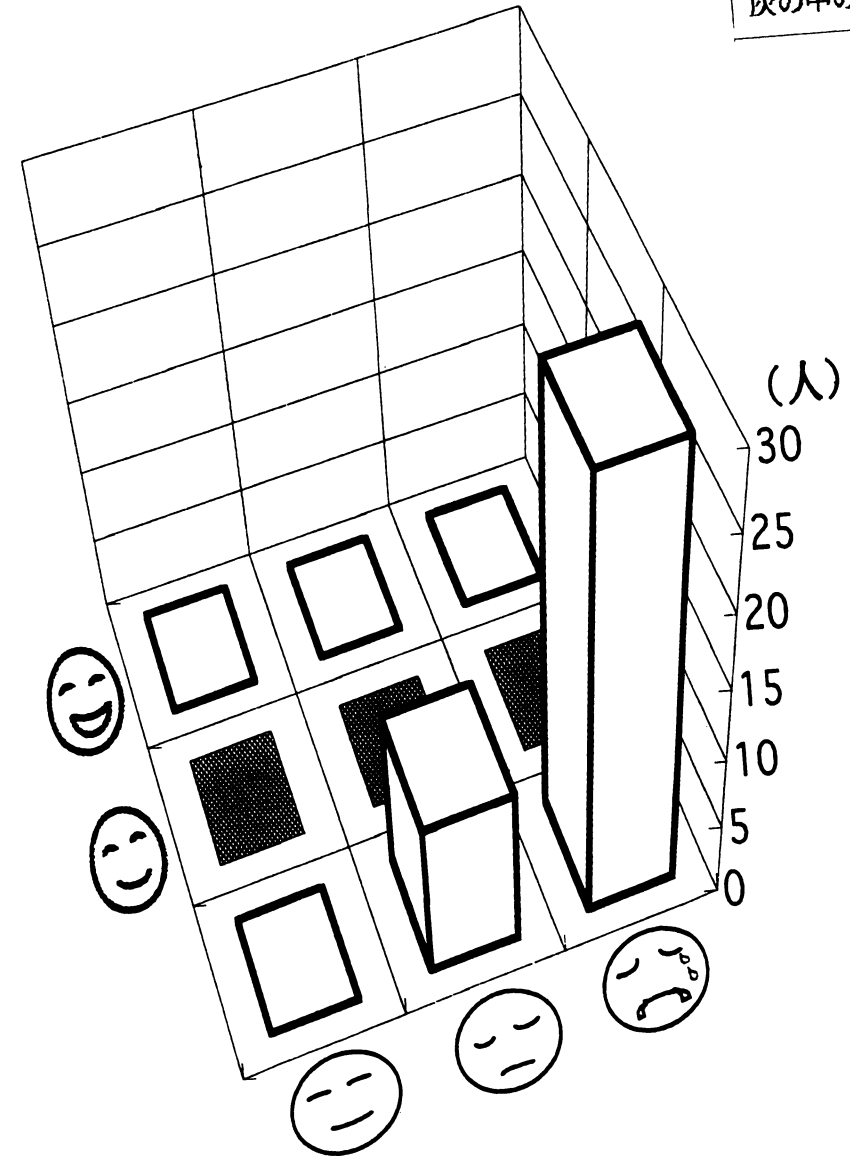
私が転校した



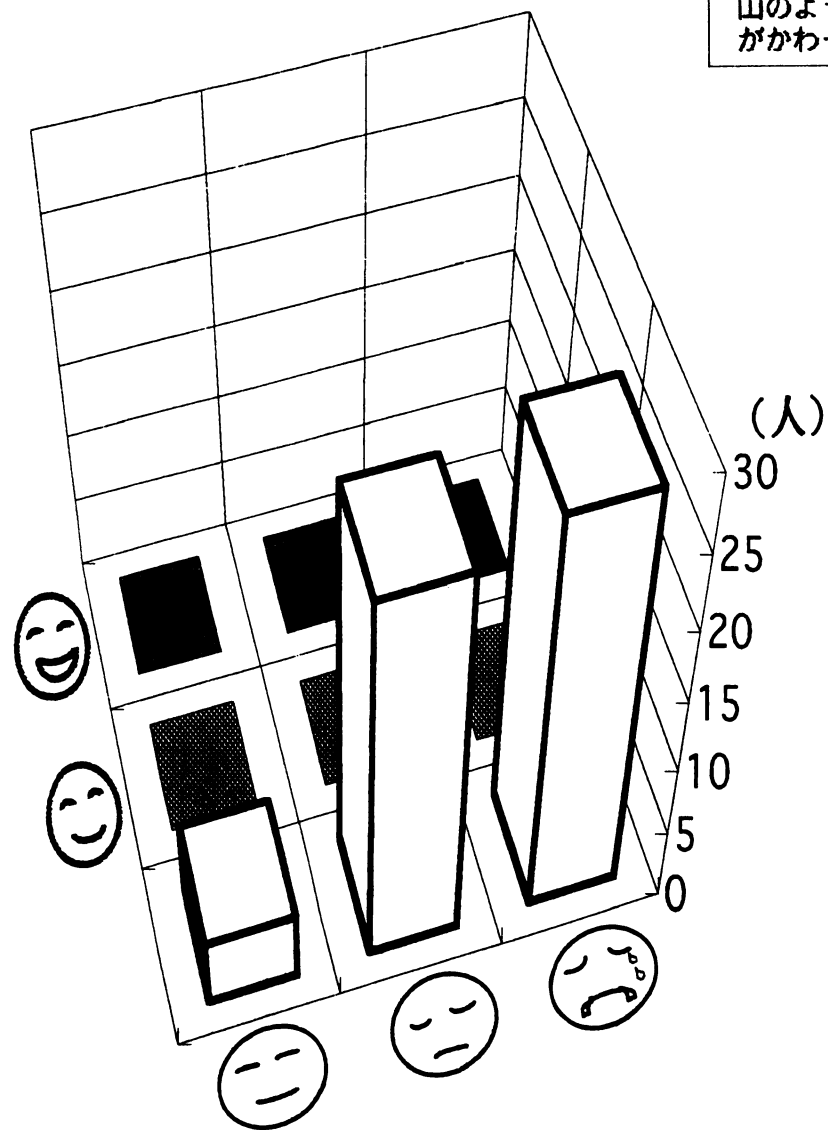
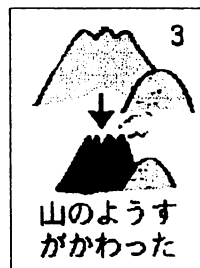
ヘルメット・マスク・ゴーグル



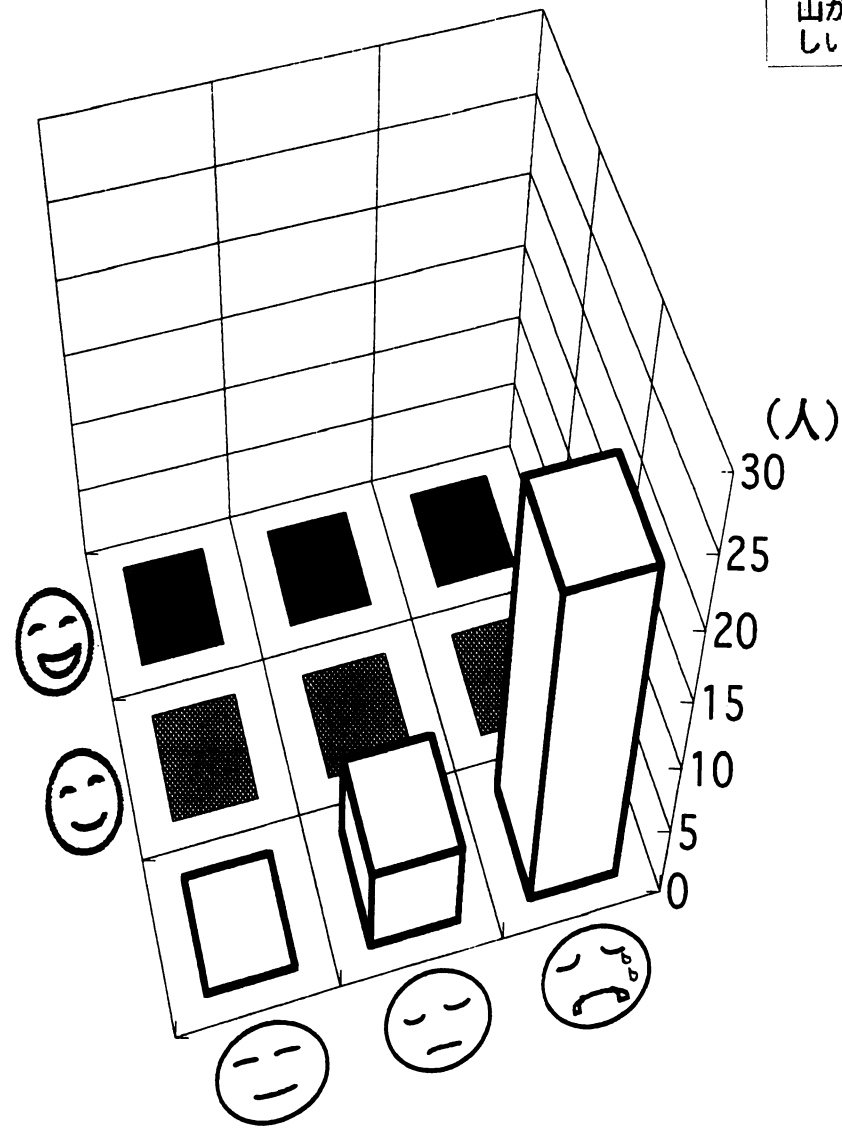
灰の中の生活



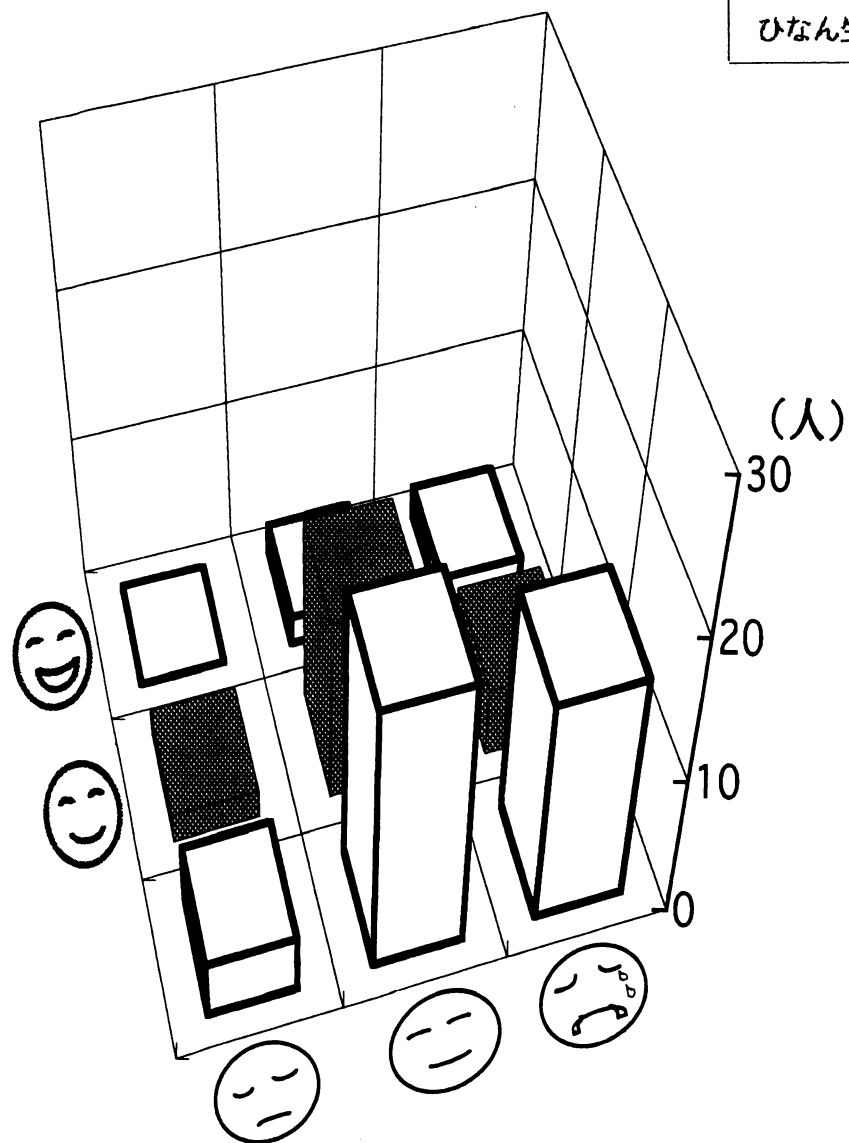
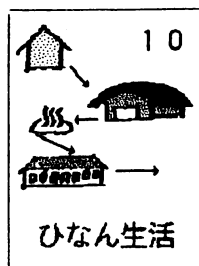
山のようすがかわった



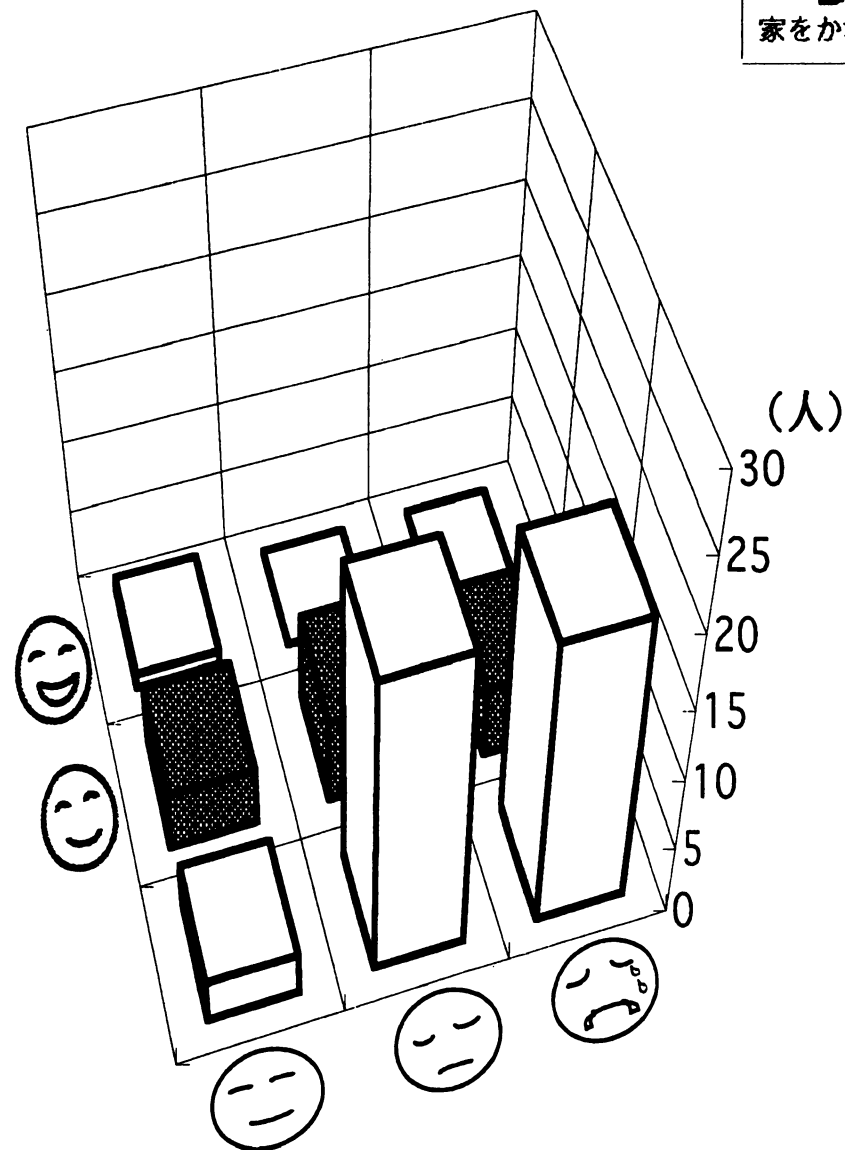
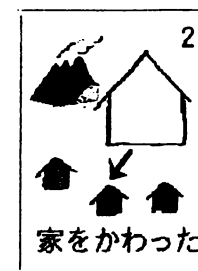
山がおそろしい



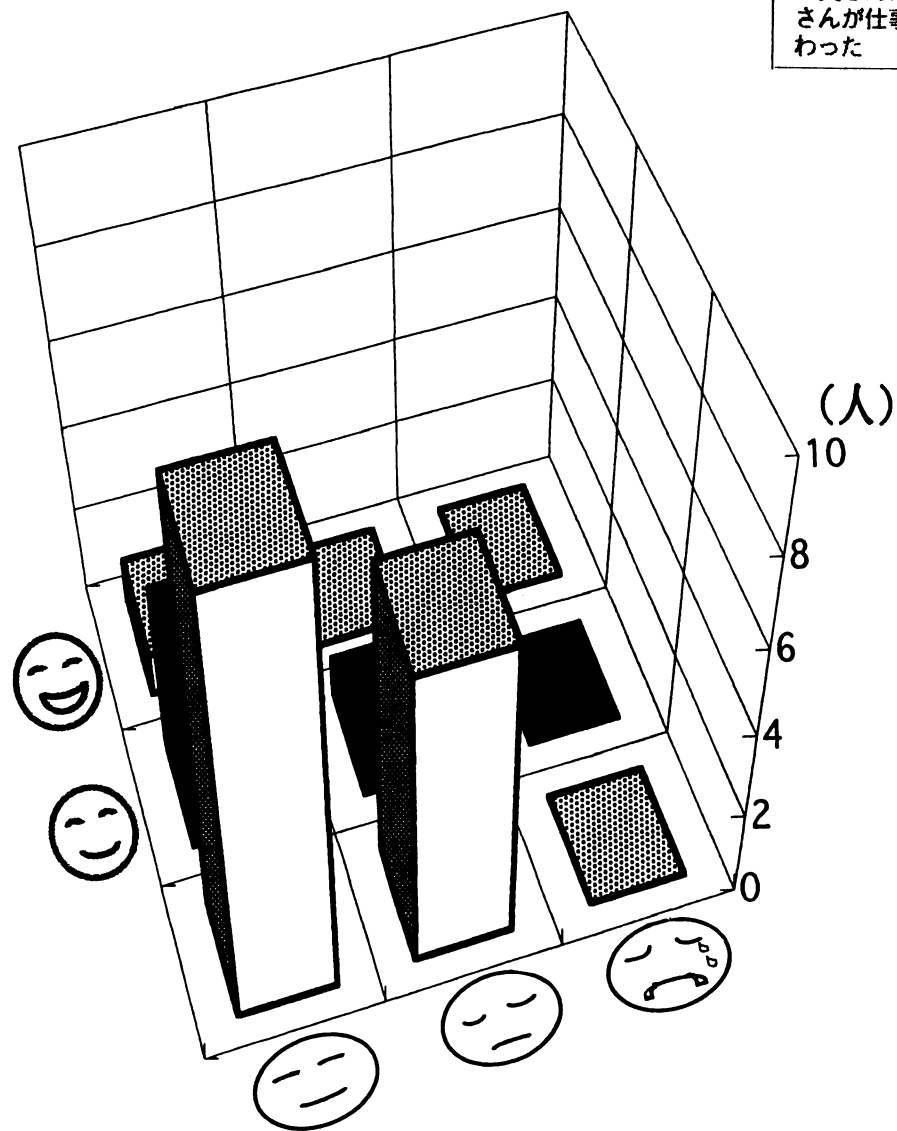
ひなん生活



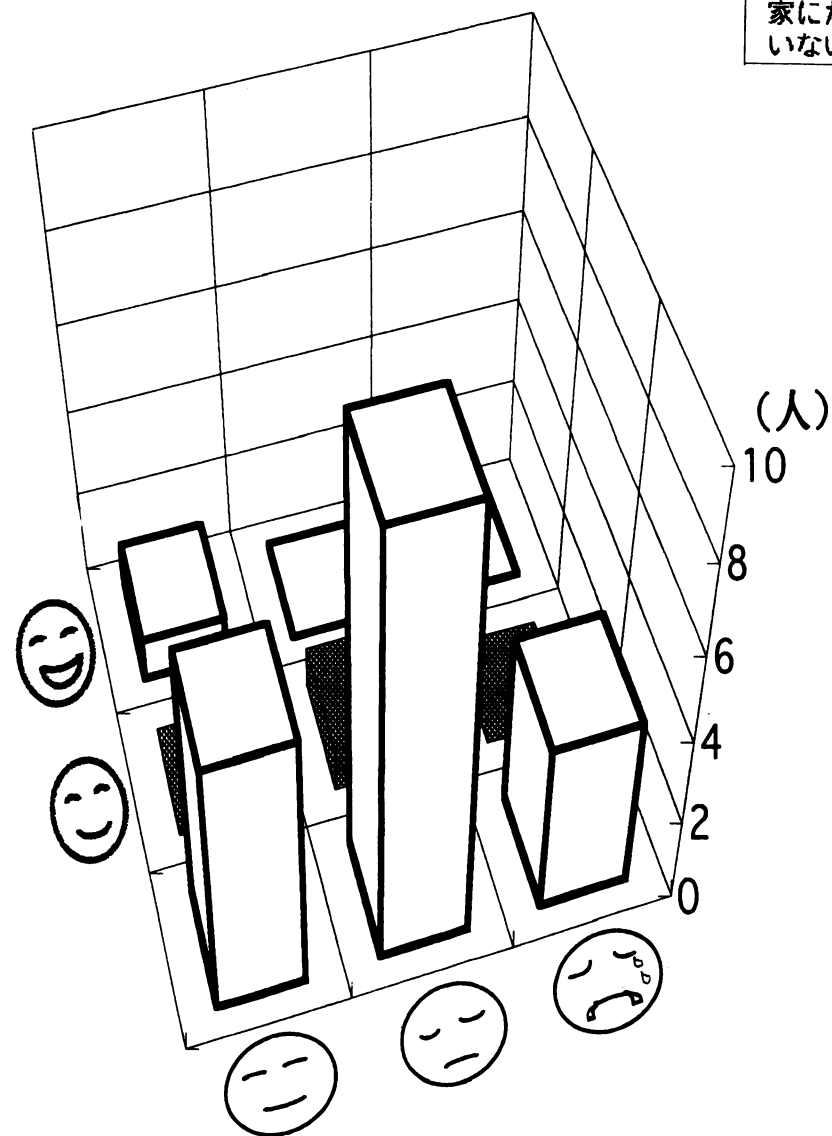
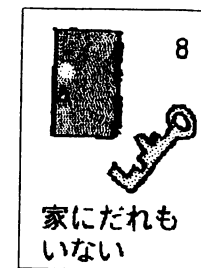
家をかわった



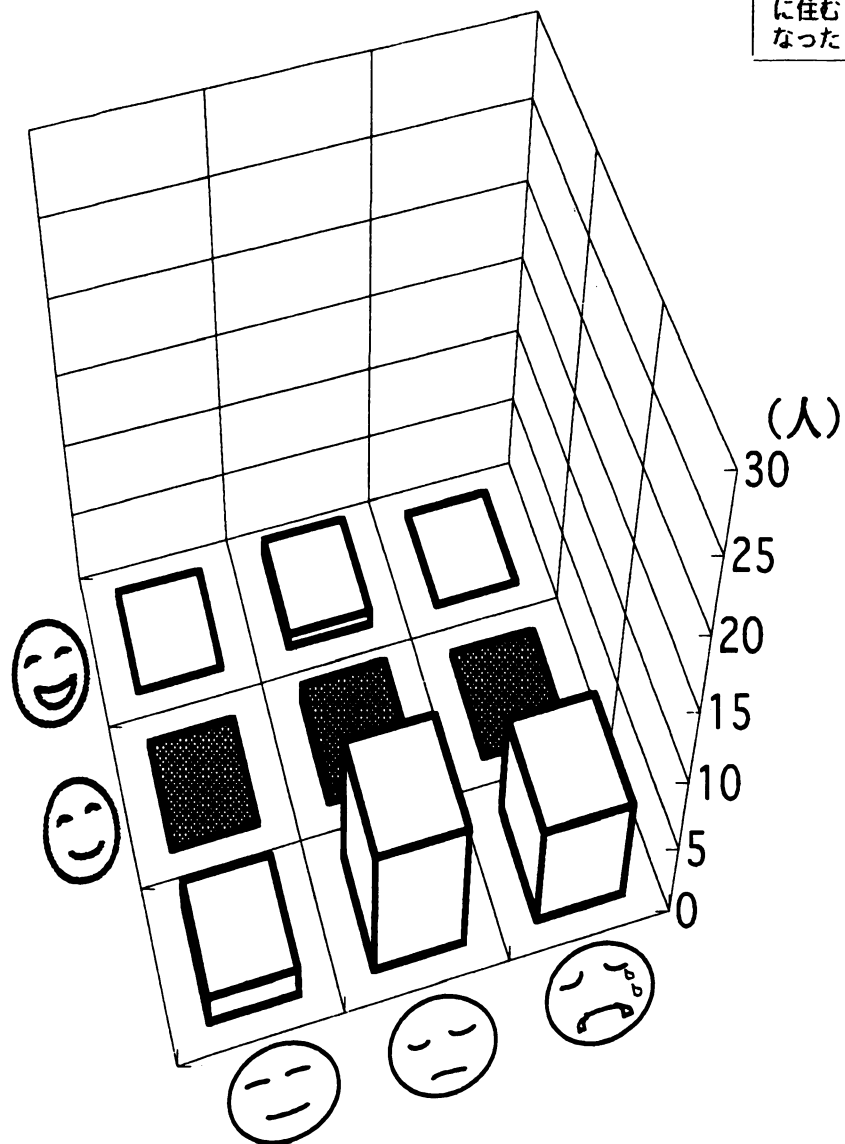
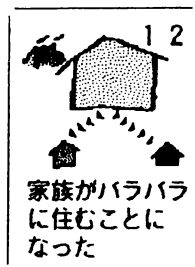
お父さん、お母さんが仕事を
かわった



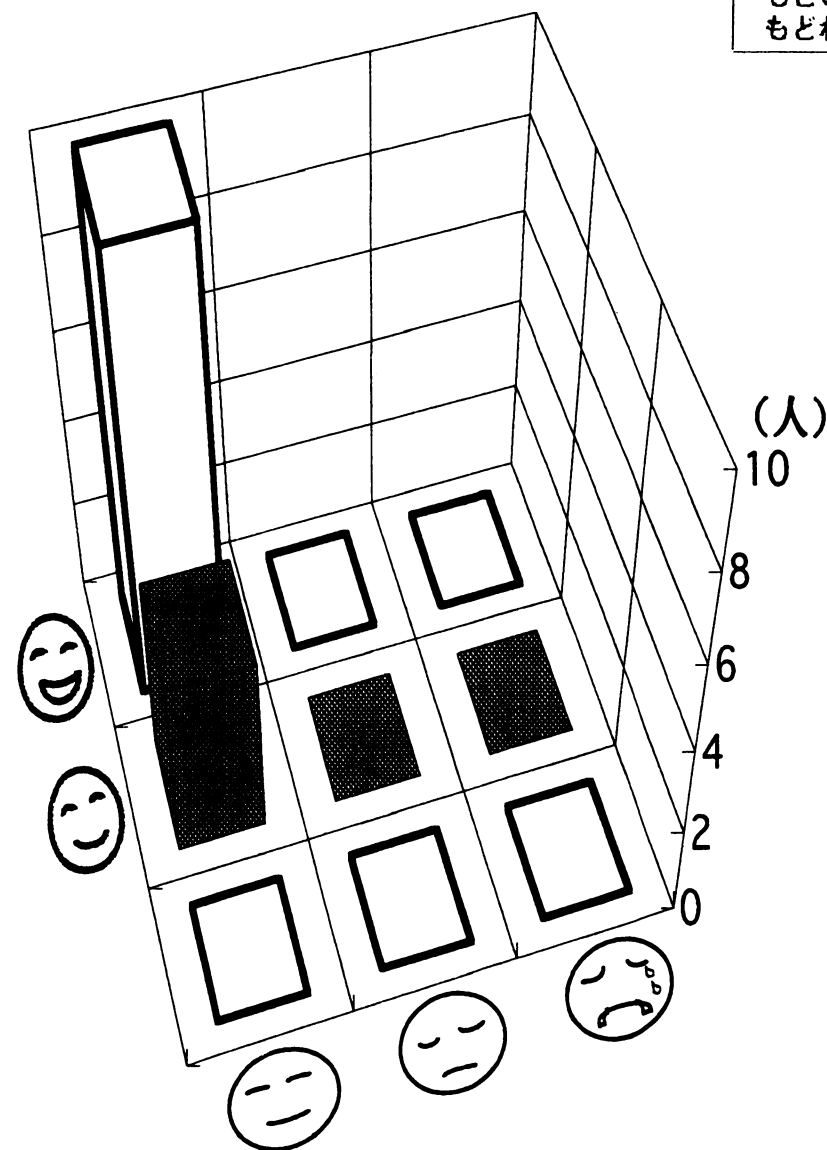
家にだれもいない



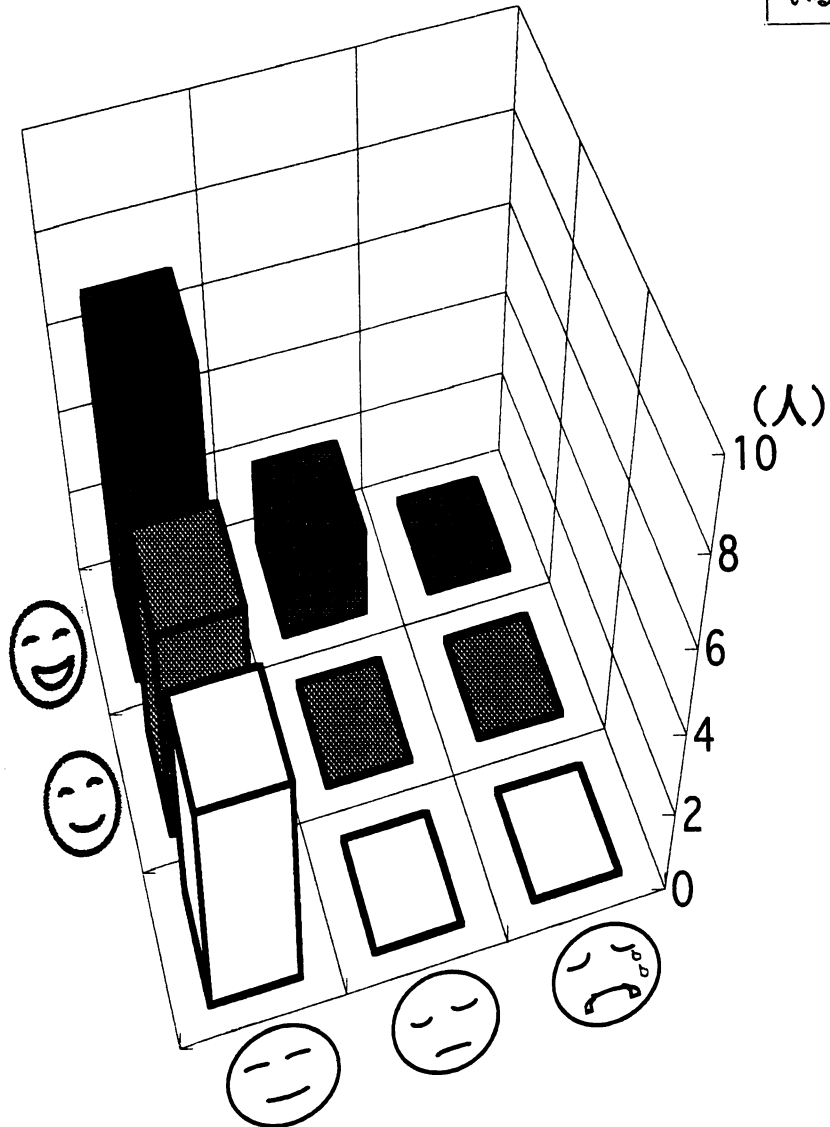
家族がバラバラに住むことになった



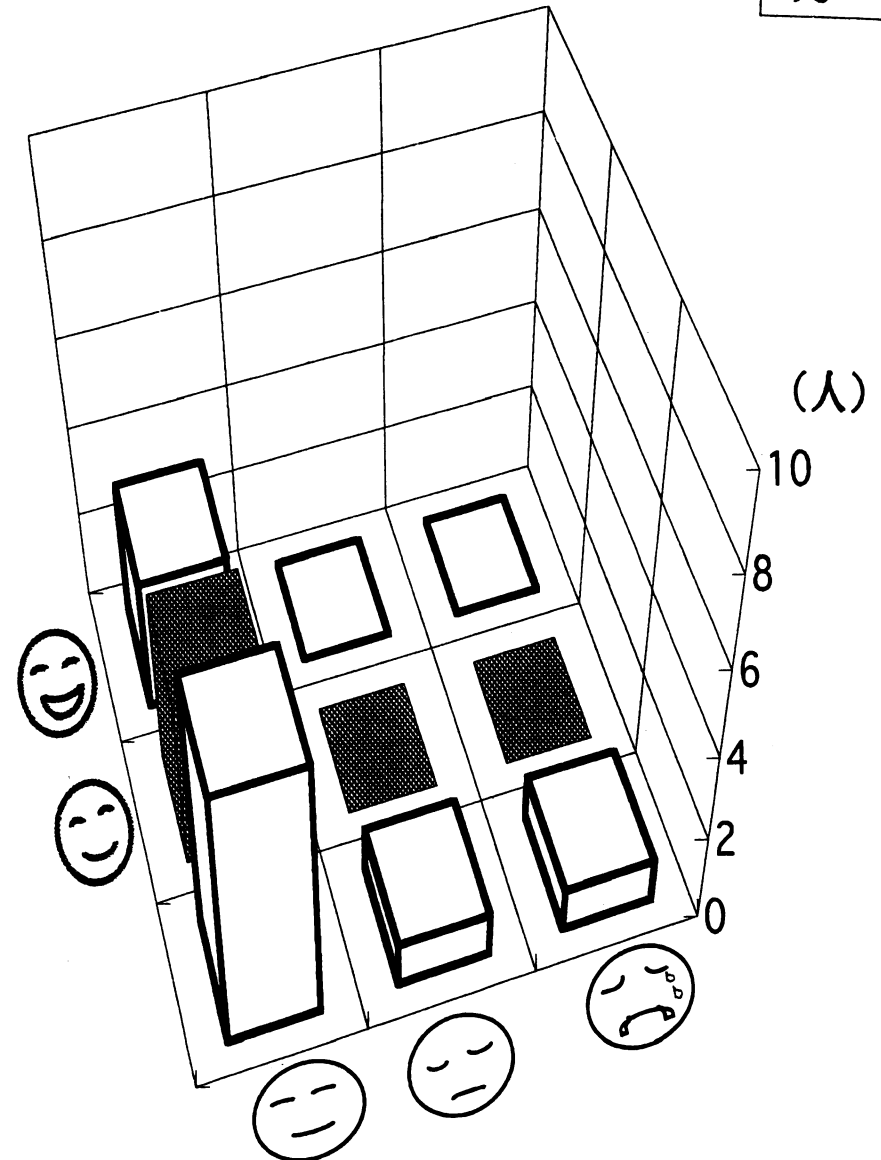
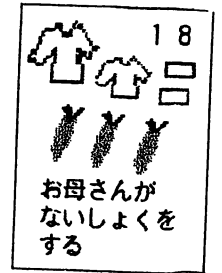
もとの家にもどれた



おじいさん、おばあさんが
家にいるようになる



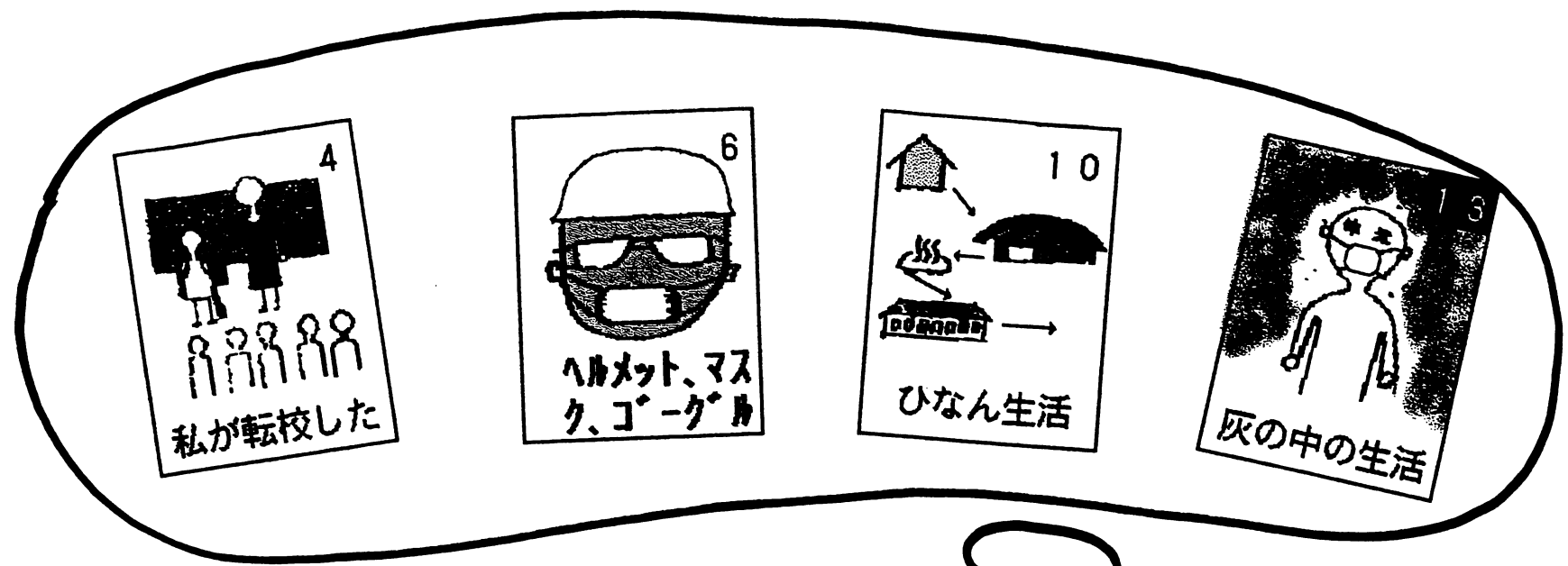
お母さん（おばあさん）が
ないしょくをする



第 4 章

みんなのアイデア

ー火山といっしょに生活するためにー



普賢岳のふんかは続きました。

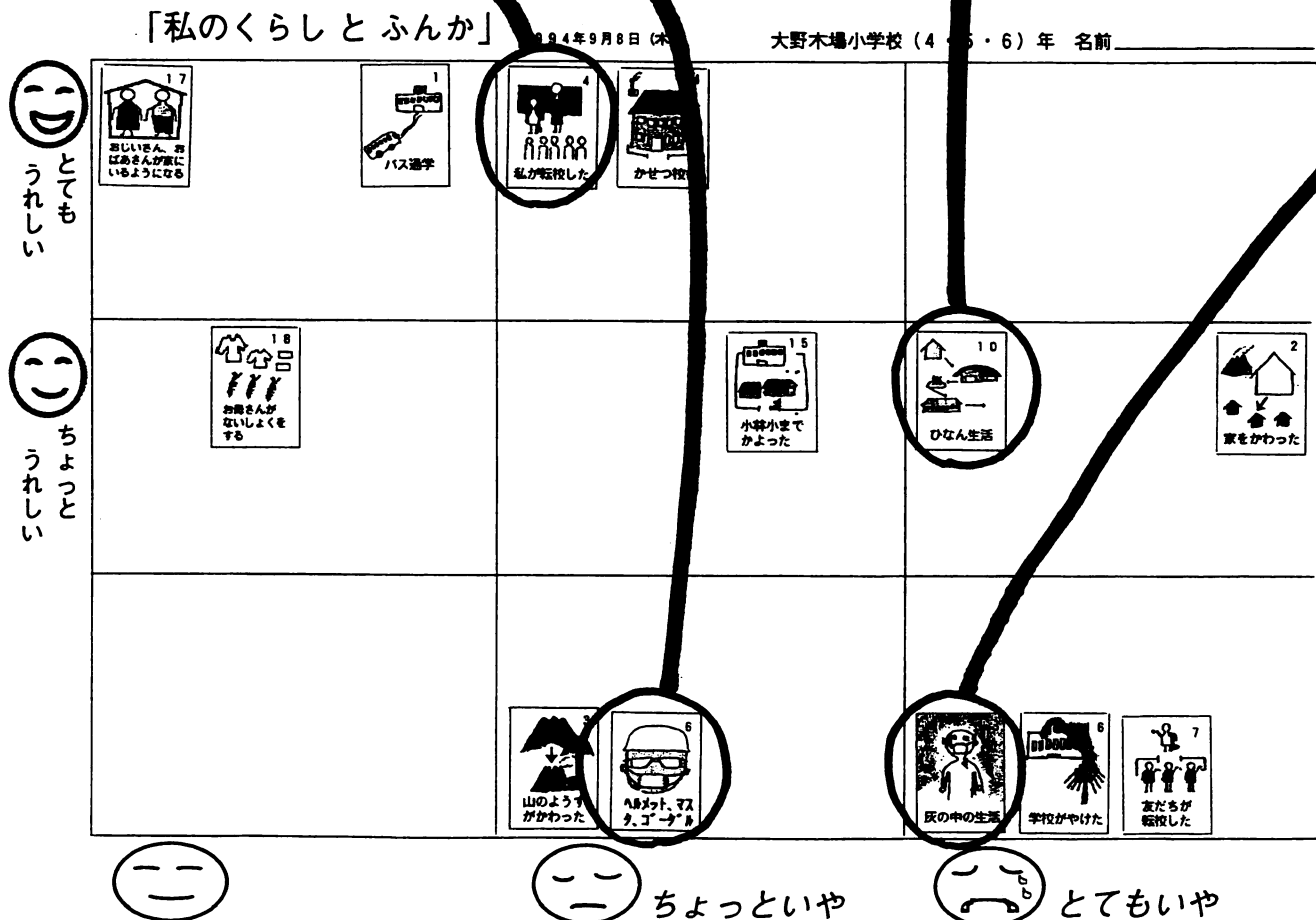
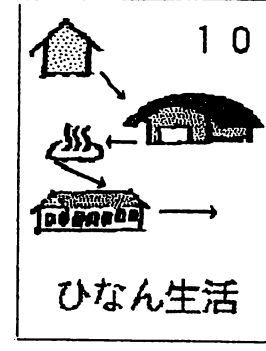
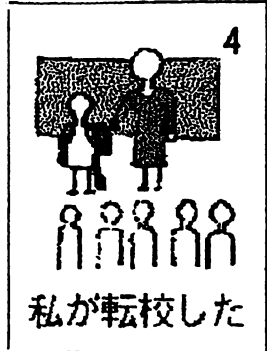
生活をするこゝとも、遊ぶこゝとも大変です。

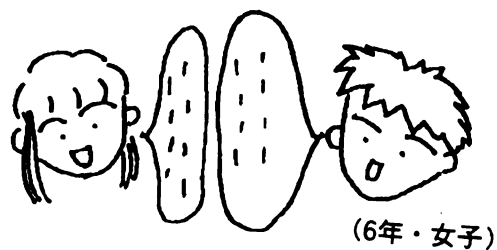
そこで私たちは、毎日を楽しくすごせる

ようにいろいろなくふうをしました。

友だちはどんなアイデアをもっているのだらう？

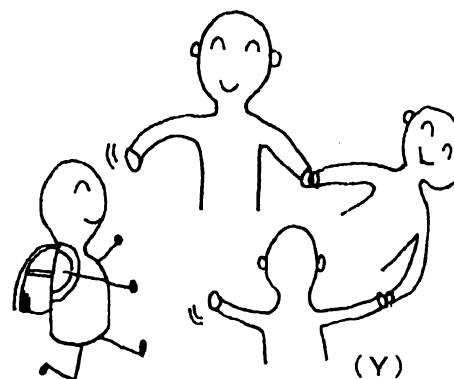
4 ^{しゅるい}種類のシールについて観察してみよう。





(6年・女子)

自分から話しかけて
友だちにする



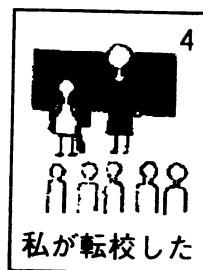
友だちとなかよくすれば
たのしくなる

新しい学校で楽しく すごすくふう

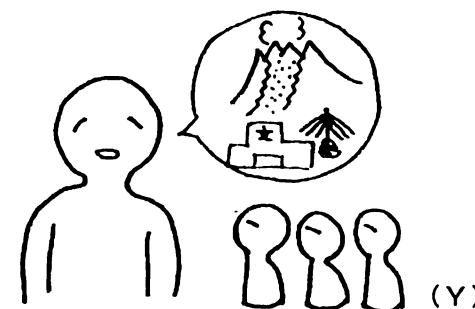


(Y)

いやがることをいわなかったら
いっしょになかよくできる

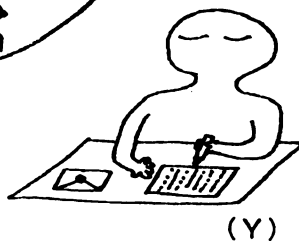
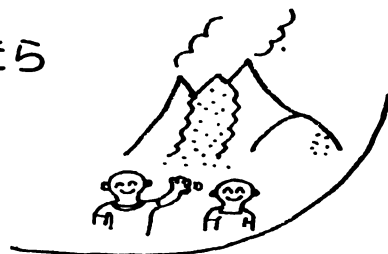


私が転校した



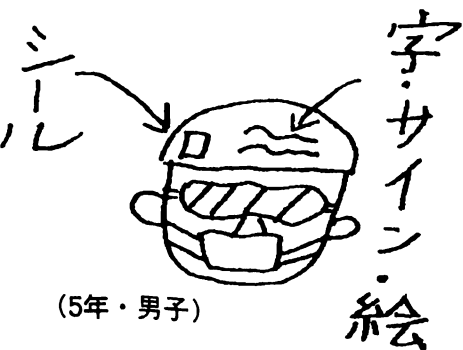
(Y)

私たちの学校は、こんなに
大変だったよとか、教えて
あげたい

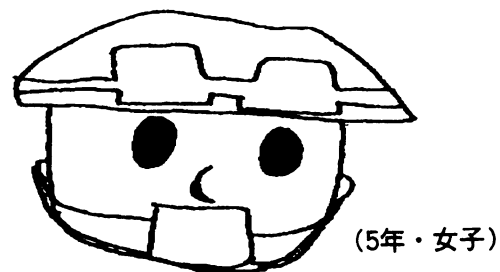


(Y)

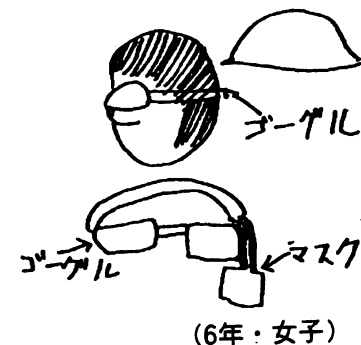
大野木場の人に手紙を
かく



ヘルメットに、サインやはでなシールをしたりすれば、少しはかっこよくなると思う



ヘルメットの上からメガネをかけ、マスクはヘルメットの中から耳にはさむ

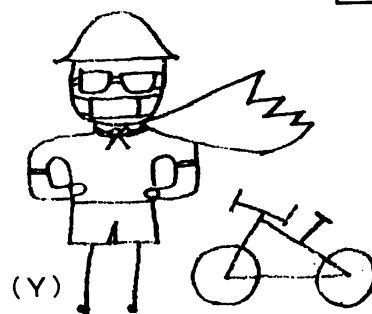


頭からゴーグルをすれば、はずれにくくなる。
マスクをゴーグルにぶらさげるといつ灰がふってもすぐふせげる

あなたがたいけんした つかいかた



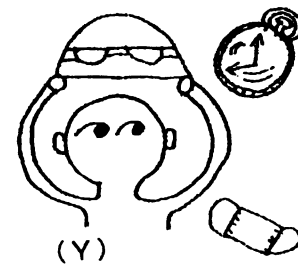
ヘルメットの下にハンカチをひろげて顔がザラザラならないようにハンカチをつかう



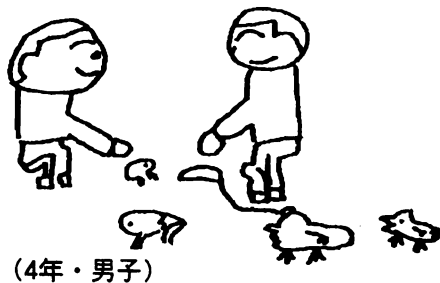
ヘルメットをかぶってじてん車にのったこと



ゴーグルとマスクをつなげて灰がはいてこないようにした

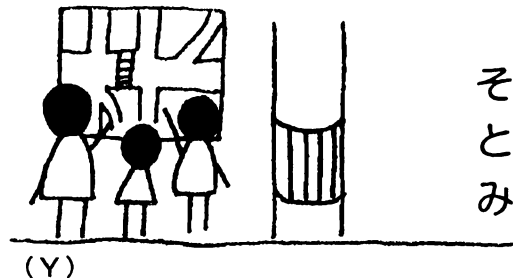


一番にヘルメットをかぶった方が時間がかからない。その次マスク、最後にゴーグルをつける



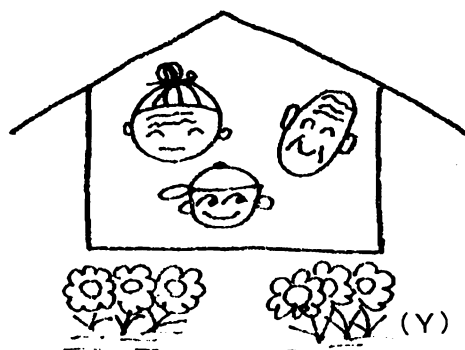
(4年・男子)

近くにひなんしている
ともだちをよんで、
たのしいあそびをすれば
たのしくなると思う



(Y)

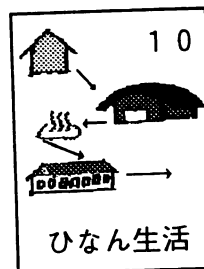
そとにでてしらない
ところとかあるので
みにいく



(Y)

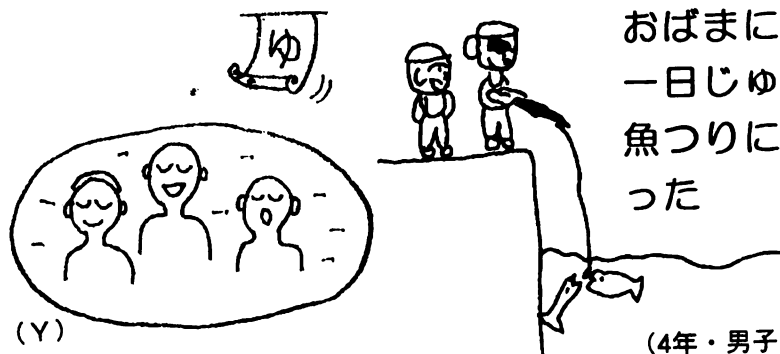
おばあちゃんちの家のちかく
の川であそんだり、花をそだ
てたりした

ひなん生活が楽しくなる アイデアやくふう



(5年・女子)

ひなん生活をしてるとい
うことはわすれて楽しく遊ば
いと思う



(Y)

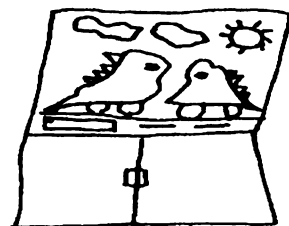
おばまにひなんしているとき
一日じゅうふろにはいたり
魚つりにいったことが楽しか
った

(4年・男子)



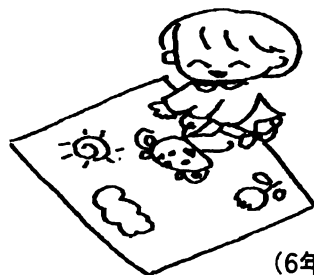
(Y)

家ぞくのでつだいをして
家ぞくという時間を長く
する



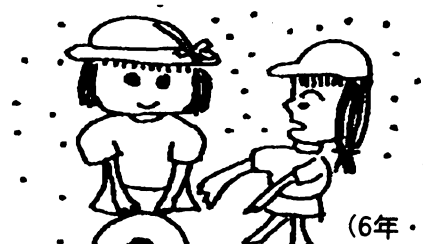
(4年・男子)

家の中でテレビをみたり
する



(6年・女子)

灰がつもったいたなどに
絵をかく



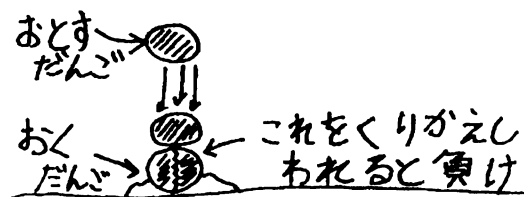
(6年・女子)

よごれてもいいようふくに
きがえ、ぼうしをかぶって
山をつくる

灰のたくさんふる日を
楽しくすごすくふう



灰の中の生活



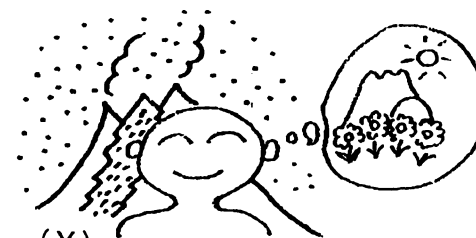
(6年・男子)

灰のだんごで強さをきそって
遊ぶ



(Y)

かんぜんそうびをして
あそぶ



(Y)

灰の中でみんなで楽しく
遊び、灰のことはわすれる
といいと思う

〈参考〉

108～111ページの文章は、すべて大野木場小学校の児童が書いたものです。
イラストのうち、学年・性別が記載されているものは、児童の実際の作品です。
児童からよせられた文章はあっても、それにイラストがない場合に限り、編者のひとりである横尾が、文章の主旨にあわせて後からイラストを描きました。

第 5 章

おわりに

—おれいの手紙—

大野木場小学校のみなさんへ

わたしたちは、^{ふげんだけ}普賢岳のふんかはテレビや新聞でいつも見ていましたが、みなさんがどんなくらしをしているのか何も知りませんでした。ですから、

「山がふんかして、たいへんだろうなあ。毎日、いやなおもいばかりで、楽しくないだろうなあ」

と、^{そうぞう}想像していました。

しかし、みなさんの^{さくひん}作品をみると想像していたこととまったくちがっていました。

「いやなことはあるけれど、毎日元気に明るくすごしているよ」

というようすがみえてきたのです。

わたしたちは、みなさんの作品から多くのことを学びました。
たとえば、灰をつかった遊びをくふうしていたこと、
ヘルメットやゴーグル、マスクをじょうずにつかえるように
けんきゅうをしていたことなど、みなさんに^{おし}教えて
もらいました。

みなさんがシールを使って^{ひょうげん}表現した「私のくらしと
ふんか」は、ふんかのことを知らない小学生に
ふんかさいがいのことを^{りかい}理解してもらえる作品であると
^{しん}信じています。

みなさん、どうもありがとうございます。これからも元気に
明るくがんばってください。

^{ながさきだいがく}長崎大学・^{いがくぶ}医学部・^{えいせいがくきょうしつ}衛生学教室
^{よこお}横尾 ^{みちよ}美智代 ^{もりやま}守山 ^{まさき}正樹

参考資料

1. この絵本について
2. 子供たちにもものをたずねる方法としての
二次元イメージ展開法
3. 二次元イメージ展開法 Q & A

参考資料

1. この絵本について

児童の被災生活に対する認識を探るというテーマで始めた研究に協力して下さったのは、長崎県南高来郡深江町立大野木場小学校の4年、5年、6年生のみなさんでした（1994年当時）。彼らがまだ低学年だった1991年（平成3年）に雲仙普賢岳が大噴火して以来、彼らの生活環境は一変しました。同年秋には学校施設がすべて焼失するという出来事も体験し、今日に至っています。私たちは、児童のみなさんのその体験と感じ方のありのままを知りたくて、このようなコンセプトマッピング作成を中心とした調査（授業）をさせて頂けるようにお願いしました。

調査（授業）の結果は、このような絵本に仕立てました。報告書というスタイルをとらずに絵本にしたのは、小学生を読者の対象としたからです。もちろん大人が読む分には差し支えありませんが、小学生が自分の力で読めるように考えて作りました。

この本は、小学生の被災体験の整理を支援するための手段として利用することもできますし、出来上がった作品の観察を通して非災害地の小学生が追体験資料として利用することも考えられます。いろいろなところで活用して頂ければ、これ以上嬉しいことはありません。

2. 子供たちにもものをたずねる方法としての二次元イメージ展開法

1) 私達が知りたかったこと

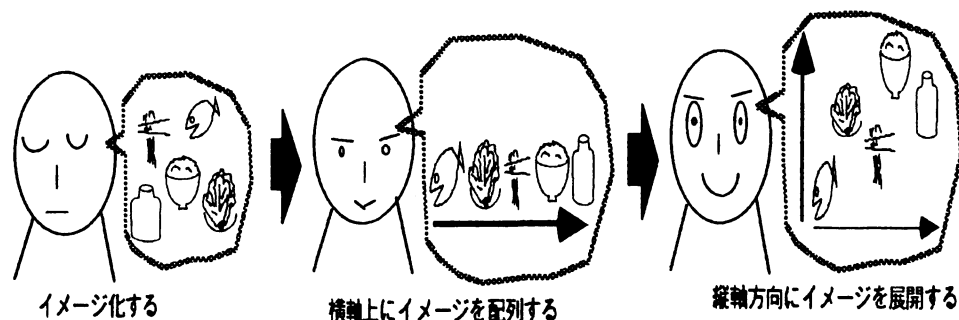
この絵本で目指したのは、子供達の考えていることをできるだけありのままに教えてもらうことです。一定のやり方で「他者が考えていることを問う」方法として、すぐに思い浮かぶのは質問紙ではないでしょうか？ 質問紙では、聞きたいことを問かけの文章として、きちんと並べることが出来ます。また答えもあらかじめ幾つか用意しておき、そのいずれかに○を付けてもらうようにすれば、

答えを見ていくのも楽です。答えの種類があらかじめ予想できるのなら、答えを数値に表した上で、統計的な方法を適用して、グラフを書いたり、平均値を求めたりといった統計的な方法を用いることも容易です。しかし、最初このような数値化された質問紙を使う方法で子供の心を知ろうとした我々は、すぐにこの方法では子供の心を知ることができないと気がつきました。最大の理由は、質問紙が大人が自分でよかれと思って作ったものであっても、それが子供自身のものの見方、考え方を反映していないということです。そこで、もっと子供の立場を考慮にいたした子供の意見を聞く方法を作り出したい、という私達の探求が始まりました。

この絵本を編集した二人は、いずれも現在は長崎大学医学部の社会医学系の研究室に所属しており、子供の立場から意見を聞くことに関心があります。横尾は高校で国語の教師をした経験があり、守山も健康教育に関心を持って様々な試みを続けてきました。この二人の協力の上に、更に大野木場小学校の皆さんとの素晴らしい出会いがあってこの絵本が生まれました。

2) 元になっている二次元イメージ展開法の考え方

この絵本を作る際に用いたのは、「対象者が漠然と考えていることがらを、キーワードの集合として捉え、そのキーワードをイメージ上の座標軸に展開する」という、イメージのマッピングに関連した一つの考え方です。この考え方は、この絵本の編者の一人である守山と、その共同研究者で現在は滋賀大学に所属している松原が、長崎県西彼杵郡長与町の中高年婦人を対象とした健康教室において、参加者の栄養に関するイメージを具体的な図として把握しようとした試み（1989年から90年）に端を発しています。この試みでは、人が何かを考え始めようとするときの様子を「その考えの内容に重要な関連を持った言葉たち（キーワード群）が、まだ未整理のまま、混沌と宙に漂っている状態」と捉えます。そして考えるという行為を、その最も単純な形として、「それらの漂っている言葉たちが、ある一つの基準によって順序づけられる」様子と捉えました。これを机上で簡単に行うために、図のような手順化を行いました。



すなわち、何か一つのとしたキーワード群が、第一段階では横軸方向へ、また第二段階では縦軸方向へ、それぞれの軸を基準として展開して行き、最初は漠然とかたまりを作っていたキーワード達が互いに分離され、キーワードの特徴がマップとして表現されます。化学物質の混合体であるサンプルを濾紙上の一点に付着させ、それを異なる溶媒によって縦軸方向、横軸方向へと展開させ、物質の分離を図る「ペーパークロマトグラフィー」と発想が似ているため、当初、守山と松原はこの方法を「心のクロマトグラフィー」と呼びました。その後、医学・保健学、あるいは教育学関連の学会で発表を続ける中で、名前の分かりにくさが指摘されたため、「二次元イメージ拡散法」という名前を経て、現在は「二次元イメージ展開法」と呼んでいます。

3) 参考文献

松原伸一、守山正樹、赤崎真弓(1991) 自己イメージ形成を支援するイメージマッピングの試み、電子情報通信学会技術研究報告、90(403):87-92.

守山正樹、松原伸一(1991) 対話からの地域保健活動、篠原出版

Moriyama, M. and Harnisch, DL (1992) Use of Visual Symbols to Promote Communication Between Health Care Providers and Receivers, Annual Meeting of the American Educational Research Association, pp.1-32.

守山正樹(1993) 栄養教育の評価について；III.小集団への働きかけにおける評価、栄養・食生活情報、7(2): 11-21.

守山正樹、松原伸一(1996) 食のイメージ・マッピングによる栄養教育の思考と対話の支援、栄養学雑誌、54、印刷中

3. 二次元イメージ展開法Q & A

この絵本を作る時に参考にした考え方は、前項に述べた二次元イメージ展開法です。しかしこの二次元イメージ展開法の原法は、健康教室で大人の考えをたずねるために開発されたものであるため、すぐに子供に応用する訳にはいきません。イメージ展開の手順自体の中に、子供の視点を反映させる必要があります。この絵本を最初から眺めて戴ければ、私達が工夫した具体的な手順をご理解いただけたと思います。

この項では、本文中で説明している児童の主体的参加と対話を重視した調査方法を応用してやってみようと思われた方やもっと詳しい説明を望まれる方のために、これまで受けた質問を中心にまとめました。

1) Q: どうして、軸を「いや・うれしい」という語に決めたのか?

A: 基本的には自分が知りたいことを軸にしました。

被災地の困難な生活環境の情報は得ていましたが、困難さに対する児童の認識の程度はわかりませんでした。また、児童の文章情報の分析からは、突然の環境変化の中で「楽しかった、うれしかった」出来事を見いだしている児童が多いこと、独特の視点で物事を観察していることがわかり驚きました。しかし、それが児童全体に共通する認識なのかわかりません。そこで被災生活の困難さの程度を知るために「いや」という軸、楽しかった出来事を知るために「うれしい」という2軸に決めました。

また、「いや」「うれしい」という2つの形容詞に決定したことについては、沢山の候補語(かなしい・さびしい・不安・たのしい・よかったなど)から、児童が緊張せずに自分の気持ちをずっと表現できる適切な言葉として、担任教諭らと相談して決定しました。

2) Q: $Y = -X$ の線上にシール(ラベル)が集中するのは?

A: この調査はあらかじめ仮説を立ててそれに基づいて行った調査ではありません。「子供たちはどのようにどんなマップを作るだろうか?」という問いかけを先行させた、探索的な調査と言えます。ですから、直線上にシールが集まるということ、調査者である我々は意識していませんでした。一方、子供たちがマップを作成する様子を観察した結果からも、上記のような集中傾向は考えられませんでした。

3) Q: シール(ラベル)の選定方法は?

A: 2つの段階を経て選定しました。

児童が書いた「被災体験作文集」を読み、そこに取り上げられている話題、注目していた事柄を整理しました。こちらで疑問に思ったことなども含めて20前後の項目を選び出しました。

次に、大野木場小学校の先生方と項目の検討会を持ちました。こちらが選んだ項目以外で、先生の視点からみて大切なもの、最近の大野木場小児童に関連の深いものなどもあげてもらいました。児童の記述情報と現場教諭の情報をもとに、環境・学校・家庭の3領域の問題について取捨選択した結果、18項目のシールに決定しました。

4) Q: シールを18枚に決めたのはどうしてなのか?

A: 最初から18枚で行うと計画していたわけではありません。しかし、シールを選んでA3の用紙にはりつけるという作業を行うわけですから、シールの数が膨大であれば児童が混乱しますし、授業時間(45分)内に作業を終了することも困難になります。結果的にシールは18枚になりましたが、児童が自由に書き込める白紙のシールを2枚用意し

たので、実際に児童が使用できたのは20枚でした。

5) Q: シールやマップの軸に絵を用いたのはなぜか? また、その効果はあったのか? 絵の準備方法は?

A: 絵を使うことによって内容に対する児童の興味、関心をひくことができました。また、出来事を頭の中でイメージしたり、思いだしたりということを容易にする働きもあったようです。ほかにも内容理解を支援する効果もありました。例えば、シールには『お母さんがないしょくをする』と印字していますが、「ないしょく」という言葉の意味が理解できない児童もいます。そこで内職内容(にんじんの皮むきとシャツのタグ付け)の簡単な絵を添付することによって、シールの意味を理解することができました。

絵は、シール内容に合わせて編者が描画しました。児童が個々の出来事や体験を思い出す手がかりとなるような絵にするために工夫しました。しかし、具体的絵柄になりすぎると、児童の想起内容が絵柄に影響を受け、一定方向に誘導されてしまうことも考えられます。そこで、児童が、自分の問題として考えられるよう、単純ものにしました。

6) Q: 事前にあえて避けた内容のシールはあったのか?

A: 噴火に関連した死亡者がいることは承知していたので、身近な人の死に関することにはこちらからふれることはしませんでした。しかしそのような経験をした児童は、「自分の心に強く残っている出来事」として、白いシールに書き込んで使っていました。

7) Q: 児童はこの調査方法の意味を理解して取り組んでいたのか?

A: この調査で大切にしていたことの一つに児童との対話があ

ります。対話を大切にするために、通常の授業時間（４５分）を使わせて頂いて、児童と対話をしながら実施しました。実施した学校は１学年（１クラス）２５名前後でしたので、ひとりひとりの様子を観察しながら行うことができました。説明には十分な時間をとり、わからない点は自由に質問できるような雰囲気を作りました。大人の考えでは理解しがたいようなシールの配置などもありましたが、そのつど児童と対話をし確認をとることができるので、相手が見えない郵送調査よりは児童の理解に信頼がおける方法がとれたと思っています。

８）Ｑ：児童を対象とする場合に気を付けた点は？

Ａ：大人とは異なった視点で物事を見ている、という事を常に頭において考えました。児童の文章を読む、作業を観察する、対話を重ねるなどの積み重ねによって相手（児童）の視点に近づくことに努めました。

９）Ｑ：被災地でこのような調査を行うことに意味があるのか？

Ａ：突発的に大きな災害を受けた地域は、すべての機能が大混乱し、大人も子供も一様に危機的状況に置かれることになります。そのような時に大人の視点でみた物事の見方、とらえ方は話題になりとりあげられますが、弱者のひとりである子供の視点が子供にあった方法できちんととらえられることは決して多くはありません。混乱する状況の中で子どもたちが何を考えていたのかを知ることは、復興対策や子供のケアを考えている大人たちにとって大切な問題です。また、非被災地域の児童にとっても、被災を自分たちの問題として追体験するための重要な学習資料として有効に活用できることが期待されます。

１０）Ｑ：このような調査方法と結果の公表の仕方は、個人のプライバシーを侵害しないか？

Ａ：二次元イメージ展開法では、その個人が考えていることが、そのままマップとして表現されます。そのため、マップの作業は子供たちと調査者との相互の信頼関係があって始めて順調に進行します。私達は、大野木場小学校のそれぞれのクラスで子供たちに出会ったときに、「あなた達の貴重な体験をマップにして、他者に体験を伝えること」をまずお願いしました。「子供たちが自分のことを語ってくれたこれらのマップをできるだけそのまま掲載すること、子供たちが書いてくれた文章やスケッチについてもありのままの手書きを大切にすること」を私達はこの絵本の編集の方針としました。普賢岳の活動とそれによる生活の変化は、一人一人の子供たちにとって貴重な体験になりましたが、それによって様々な心の重荷を負った子供たちがいることも事実です。一人一人の子供の心を大切にするために、マップ作成者の氏名は伏せることにしました。しかし個別のマップには、「自分たちの経験を全国の小学生に伝えたい」という子供たちの願いが込められています。一枚一枚のマップの背後には大野木場小学校の素晴らしい子供たちがいるという事実を忘れないために、各マップには氏名に代えてシンボリックなシルエットをつけ加えました。

１１）Ｑ：このような方法（二次元イメージ展開法）で行った調査は他にどんな例があるか？

Ａ：児童を対象とした使い方以外に、住民検診の際の栄養指導や日米の大学生の食事に対する意識調査、医療を学んでいる学生を対象とした性教育など多方面に活用され成果があがっています。

謝辞

この調査を行うにあたりまして、長崎県南高来郡深江町立大野木場小学校、河野義文校長先生をはじめたくさんの方にご協力を頂きました。調査の実施を快諾して下さいました前校長高柳忠昭先生、松尾好則教頭先生、大切な授業時間を私たちに提供し、教壇に立つ機会を与えて下さった宮田千穂先生（4年担任）、山奥依子先生（5年担任）、松寄和之先生（6年担任）ほか、大野木場小学校の先生方には調査計画の段階より、暖かいご助言を頂くことができました。有明町在住の杉本陽子先生は島原半島への重要な第一歩を共に歩いて下さいました。有明町立大三東小学校下田和俊校長先生は大野木場小学校への大きな橋を渡して下さいました。

たくさんの方にはげまされて、やっと完成にこぎつけた絵本ですが、最も感謝したい相手は大野木場小学校児童のみなさんです。みなさんが噴火災害を前向きにとらえ、明るく積極的に生活している姿は、この研究の原動力でもあり、私たちにとって大きな励みとなりました。最後になりましたが、本研究に対し終始暖かいご理解とご協力を賜りました、衛生学教室齋藤寛教授に心から感謝の意を表したいと思います。

なお、本研究の一部は平成6，7年度文部省科学研究費補助金（奨励研究B）および平成7年度笹川科学研究助成よりご援助を頂きました。

長崎大学医学部衛生学教室
教務職員 横尾美智代
助教授 守山正樹

私のくらしとふんか

一雲仙普賢岳の噴火災害を体験した小学生の気持ち一

【発行日】1996年 1月15日

【編集者】横尾 美智代・守山 正樹

【発行・問い合わせ先】

長崎大学医学部衛生学教室 横尾 美智代

〒852 長崎市坂本1-12-4

phone 0958-49-7063

fax 0958-49-7064

e-mail moriyama@net.nagasaki-u.ac.jp

（守山 正樹）

【印刷】 昭和堂印刷

〒852 長崎市栄町6-23

phone 0958-21-1234